

Contents



基本のレッスン
4

Part 1 ジオメトリックで遊ぶ



球を着る
09-----23
22



円を着る
10-----24
11-----26



三角を着る
12-----28



四角を着る
30



後ろにニョキッと
14-----33
32



前にニョキッと
15-----37
34-----36



ストールみたいに
16-----38



球のジャバラ
17-----41
40



円のジャバラ
18-----43
42



サークルスリーブ
19-----45



四角のジャバラ
20-----46

基本になっているボディは文化式原型成人女子用を使用。詳しくは96ページを参照。

また、作図はすべてMサイズ(バスト80cm、ウエスト64cm、身長150cm)。

各図の袖の位置や分量などはサイズの大小によって変わる。

$\frac{1}{2}$ のボディを使うときは、作図上の実物大ボディのための寸法を $\frac{1}{2}$ にしてパターン展開する。

Part 2 デコレーションの仕組み



ノット
49-----60
58



ジャングル
50-----64



スター
51-----66



クイックターン
52-----70
68



見返し・しだい
53-----75
73



カウルネック
54-----76



カウルネックの応用
55-----78
56-----79

Part 3 消える……



消えるスカーフ
81-----86



消えるネクタイ
82-----88



消えるラベル
83-----90



消えるポケット
84-----92
94

この本の使い方
95

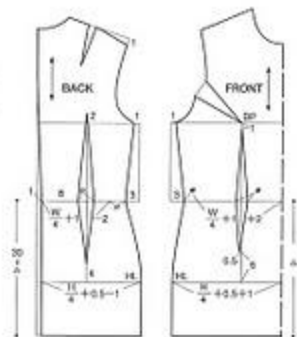
文化式原型成人女子用の
作図のしかた
96

文化式原型
成人女子用Mサイズ($\frac{1}{2}$)
98

基本のレッスン

切替え線だけで立体を作る

パターン作りのベースになっている文化式原型は、ダーツ(胸ぐさダーツ、後ろ肩ダーツ、ウエストダーツ)によってボディにフィットさせている。まず、ベーシックなトルソーのパターンに、ダーツではなく自由に入れた切替えのラインで立体を表現してみたい。



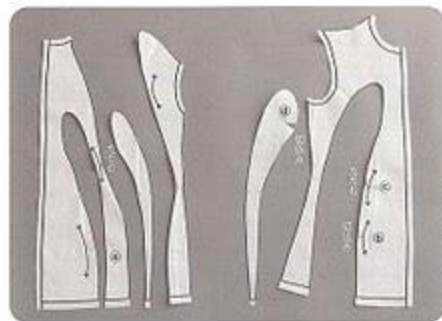
●トルソーの作成をする。



●ボディを縫い上げ、ダーツ止り、ウエストラインに●印をつける。
●の位置に簡単に自由にラインを入れる。縫い合わせるときのために、合い印も入れておく。



●ラインどおりに縫ると胸元に平直にならず、図のよりに変換するところができる。



●②はたまた右ことで縫い代を出した。そのほかの平らにならないところは図のよりに、ダーツ止りに向かって縫込みを入れる。図のよりに縫ってほいているところは、たまた右にして平らにした。縫合せでは、たまた右だとこは伸ばし、縫込みを入れたところはいせるかつす。

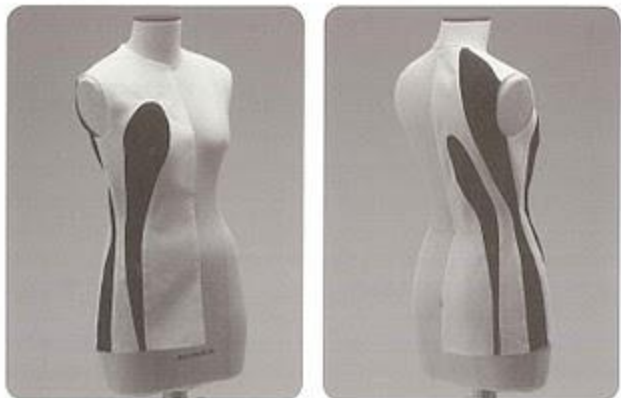


●③は縫込みを入れたが縫合分が多いので、3か所に縫込みを入れていせを分散することにした。

④を裁断する



- (1) 布の上にはパターンを置き、縫い代をつけて裁断する。
 (2) 縫い代も広れずに入る。
 (3) 切り開いたところは縫い止しをかける。アイロンでいせ込む。
 (4) ダーツがなくても、胸にフィットする。



- ◎ 縫い上げて完成
 切替え線が*印から離れていなければならないほど、くせとりが必要になる。離れすぎている場合は、素材にもよるが、くせとりだけでは無理なので、切替え線をゆるやすなどのデザイン変更が必要になることもある。

さらに応用として、裾にフレアを入れてみた



- ◎ ①のパターンを使い、フレアを入れない場所にラインを入れる。
 ◎ フレア分を切り開く。前身頃は胸にフレア分を出した。後ろ身頃は重なってしまい、1枚のパターンとしては成り立たない。量が多いので、足量もたたんでも縫い代を出さずできるので、切り替えて2枚のパターンに分けることにした。
 切り替えた2枚のパターン。



- ◎ 縫い上げて完成
 切替え線の入る方により、パターン作りにも多少のバリエーションが返ってくる。そのつど柔軟な考え方で、完成への方法を設けてほしい。

PATTERN MAGIC

Part 1 ジオメトリックで遊ぶ

数学で、図形の勉強をしているときから

“円”が好きだった。

どんな形より、縫や手で安心できるから。

まず、円から始めて三角、四角……と、

服のパターンにしてみた。

体を入れると余ってくる、本来なら必要のない部分が

フレアやドレープになるおもしろさにはまった。

さらにオブジェのようなフォルムの服、

ギターにも取り入れてみた。

ジオメトリックな図形は、形の美しさの源点。

さまざまな方法で再構築して、

パターンで遊んでみたい。



球を着る 解説33ページ



円を着る 解説24ページ



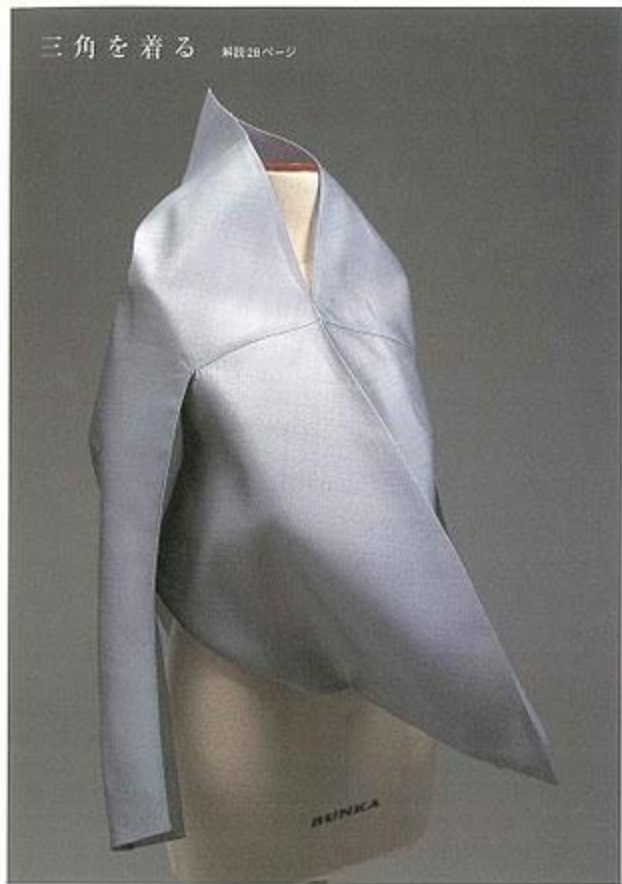
10
PATTERN MAGIC

円を着る 解説24ページ



11
PATTERN MAGIC

三角を着る 解説 28ページ



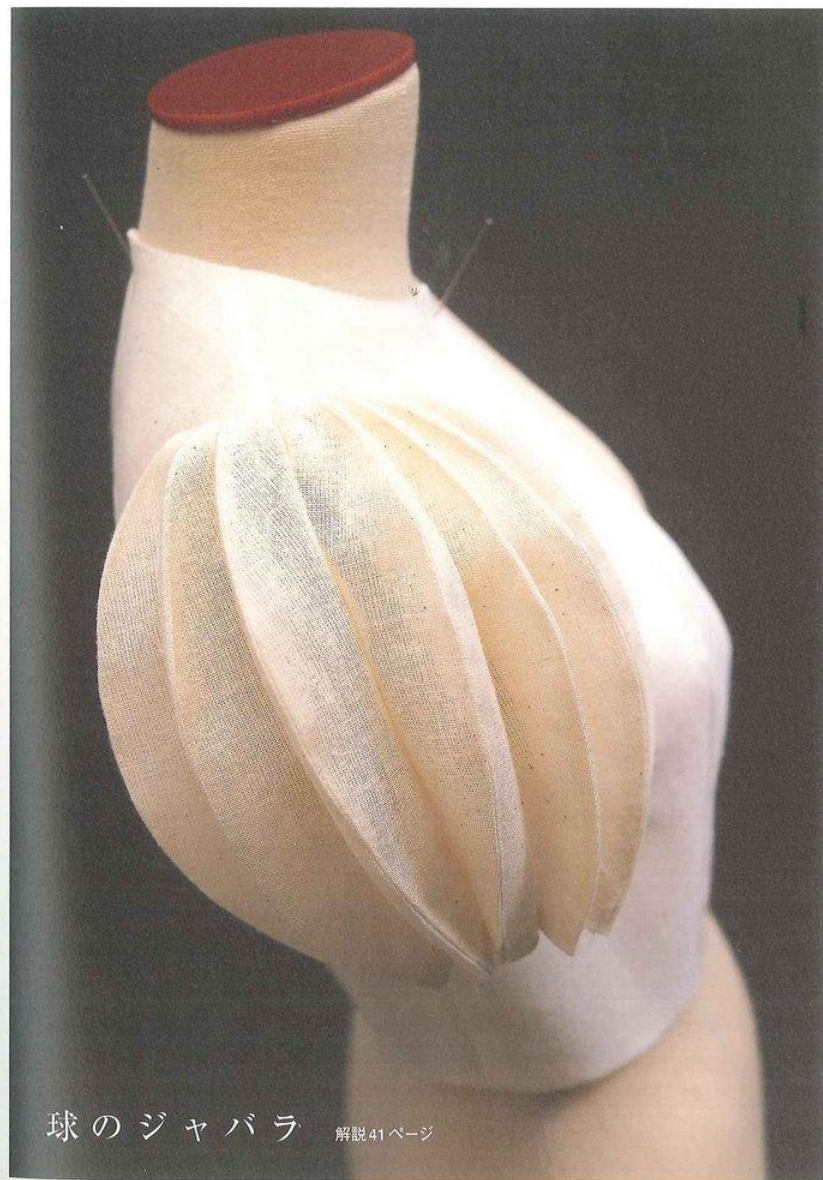
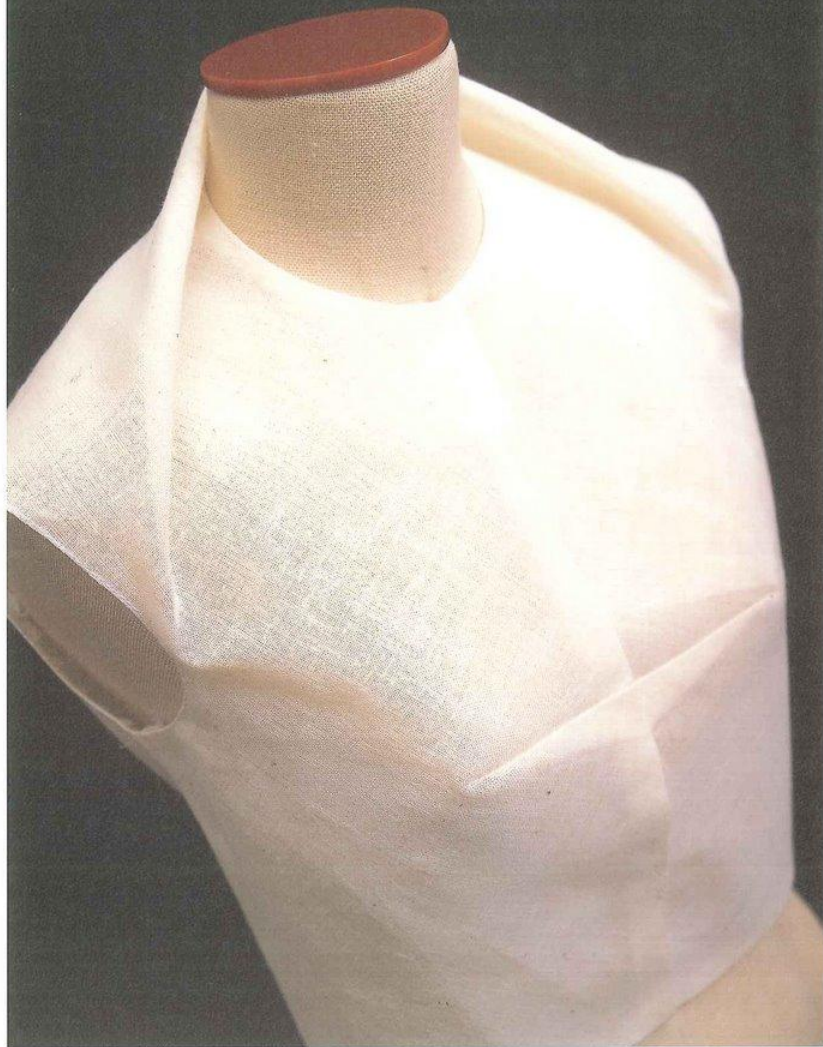
12
PATTERN MAGIC



13
PATTERN MAGIC

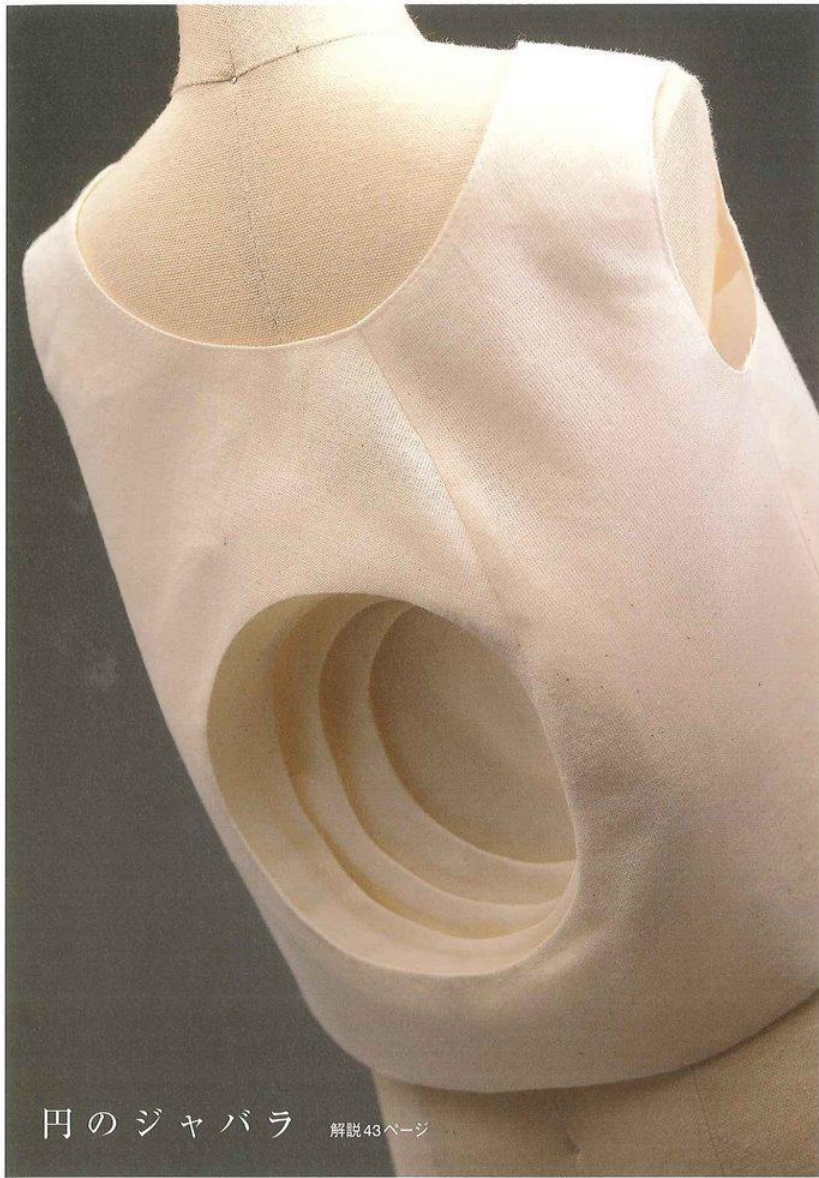
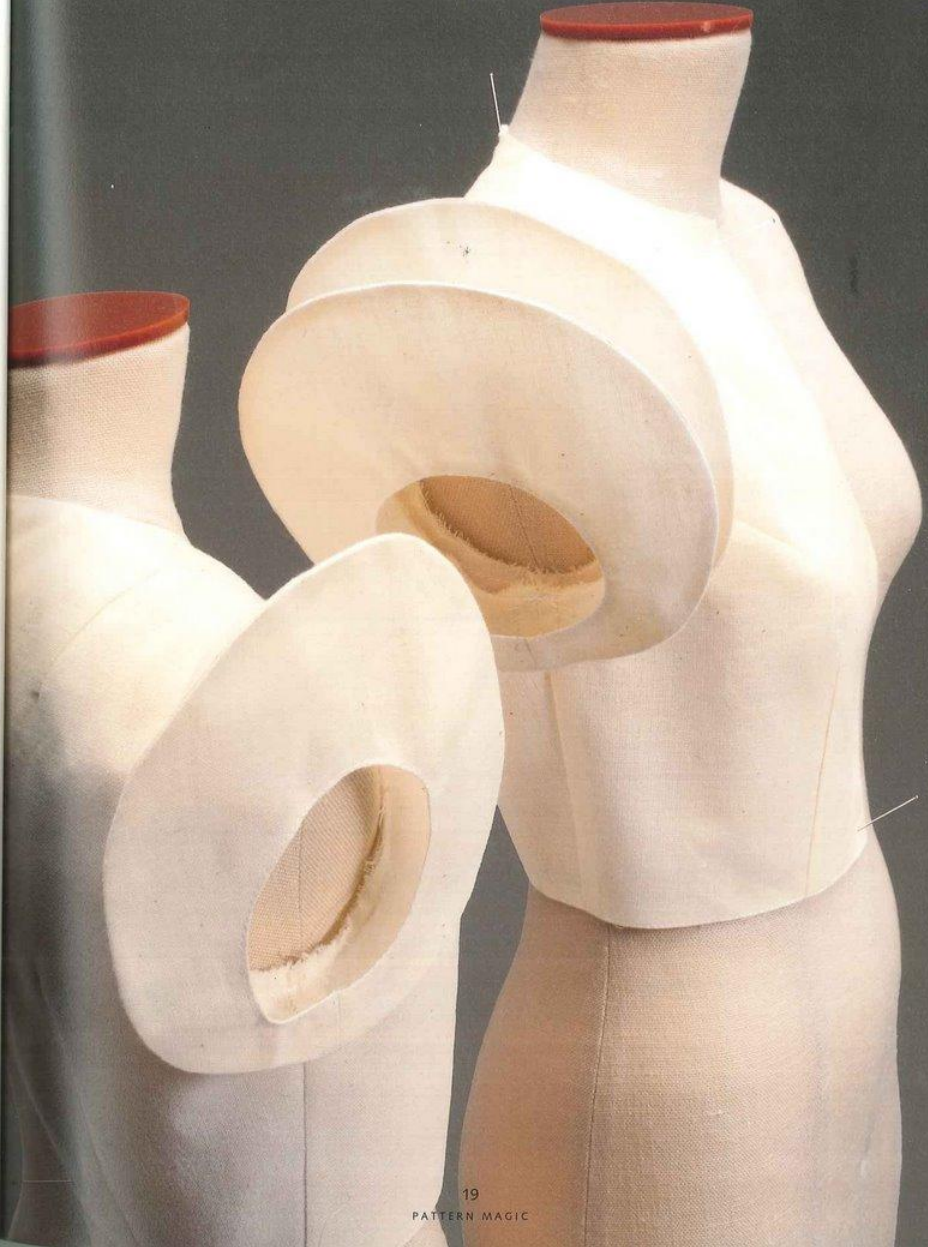


ストールみたいに 解説38ページ



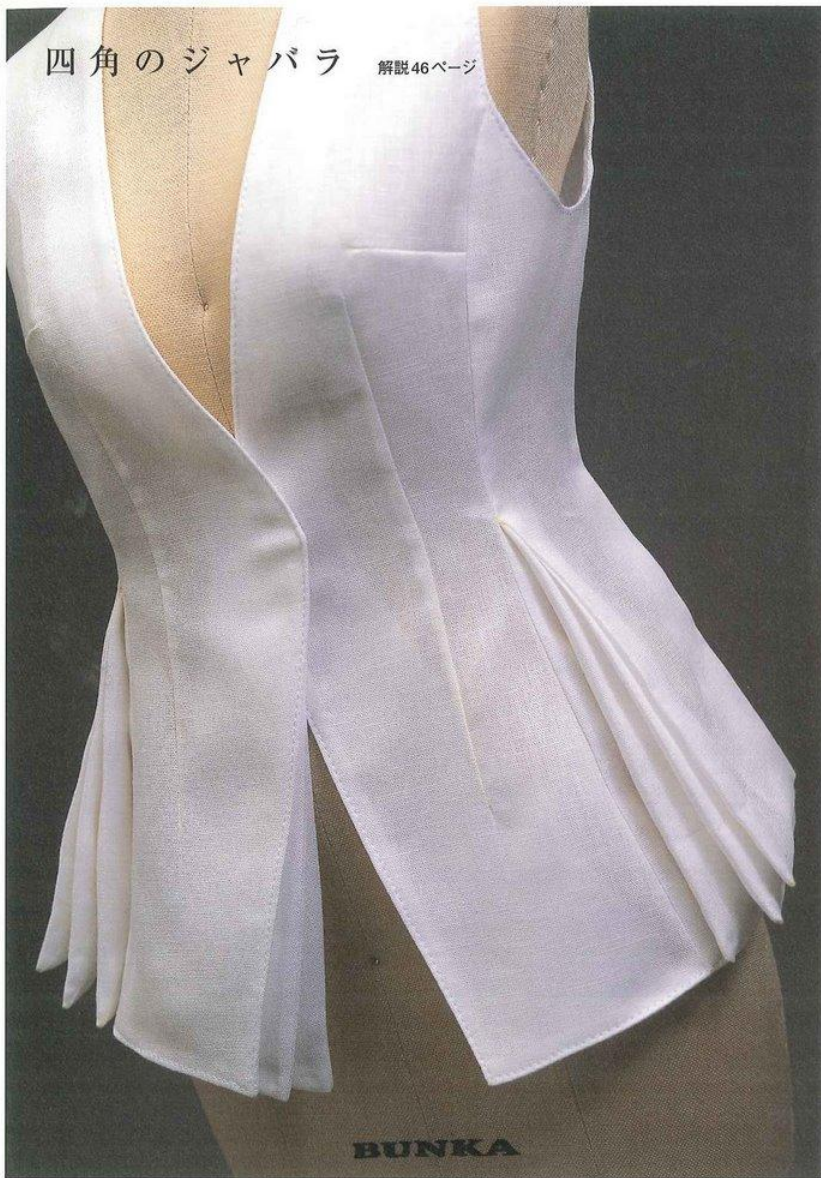
球のジャバラ 解説41ページ

サークルスリーブ 解説45ページ



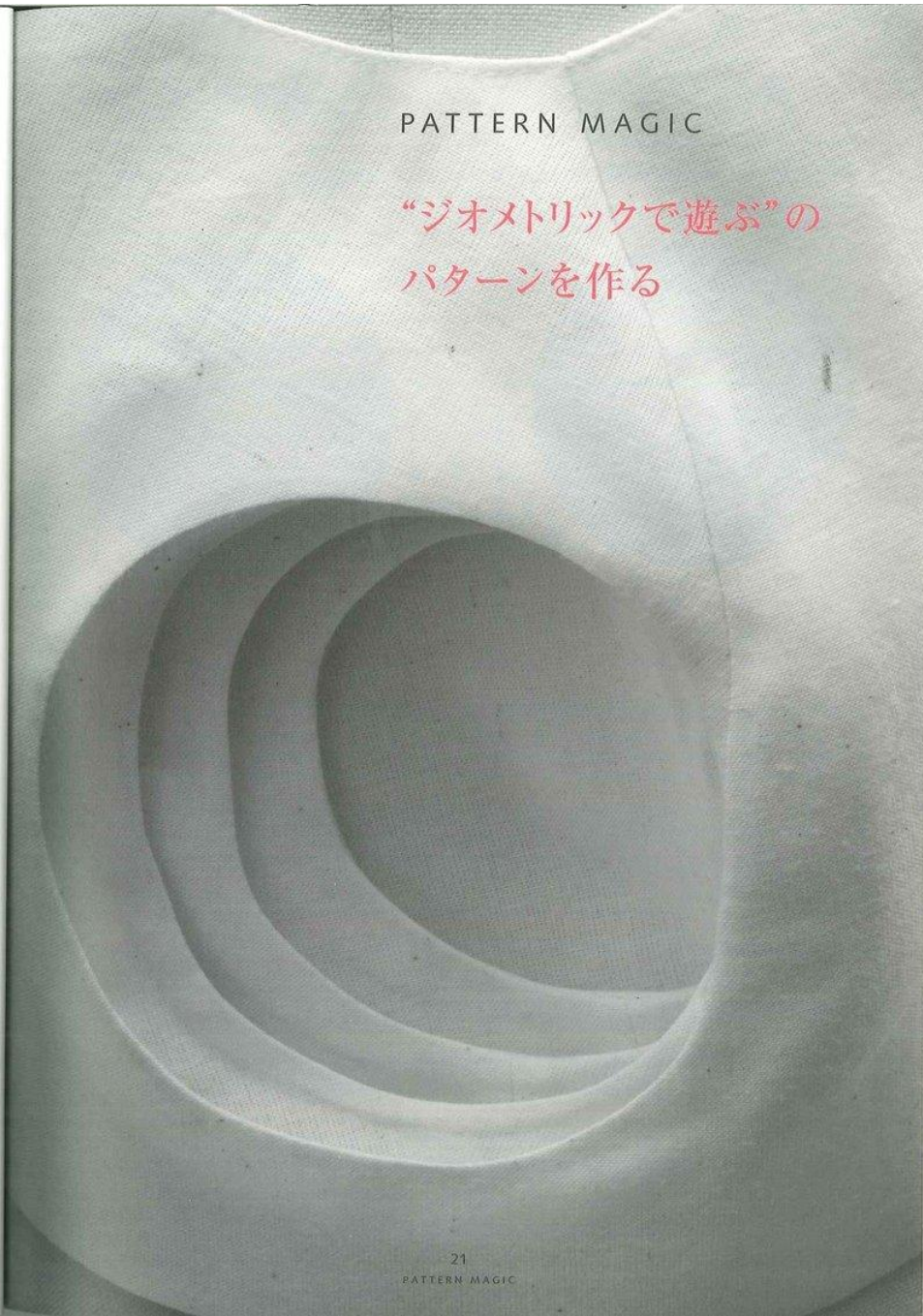
円のジャバラ 解説43ページ

四角のジャバラ 解説46ページ



PATTERN MAGIC

“ジオメトリックで遊ぶ”の
パターンを作る

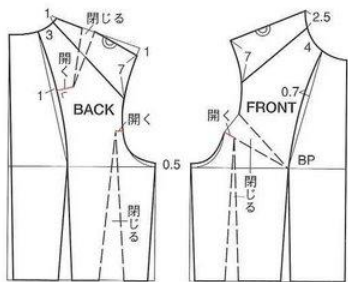


球を着る

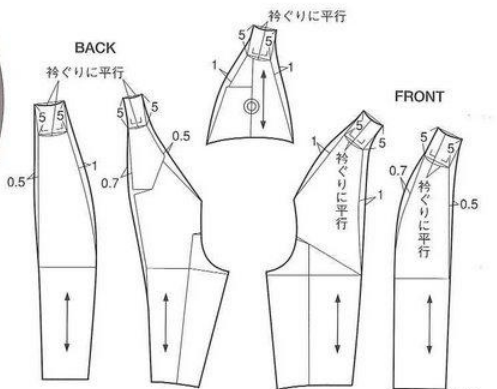
空にふわふわと浮かぶ気球の写真を見ていて思いついた服。

体から浮かせたフォルムは、立体裁断で表現するのは難しい。

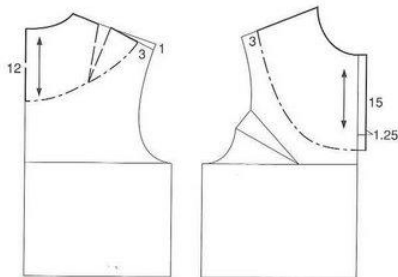
原型に入れた切替え線をふくらませて、服として美しい球体を探ってみた。



① 原型にバランスよく切替え線を入れる。



- ② ダーツはすべてたたむ。
- ・袖ぐり線より高い位置からふくらませるので、袖ぐりを5cm高くし、元の袖ぐり線を写した。
 - ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つなぎりよく線をかく。
 - ・前中心線がカーブなので、持出しはバイアスでとる。
 - ・ふくらみ分を追加してできた切替え線の縫合で長さが合わない場合は、いせや伸して合わせる。差が大きい場合は、袖ぐりで逃がす。

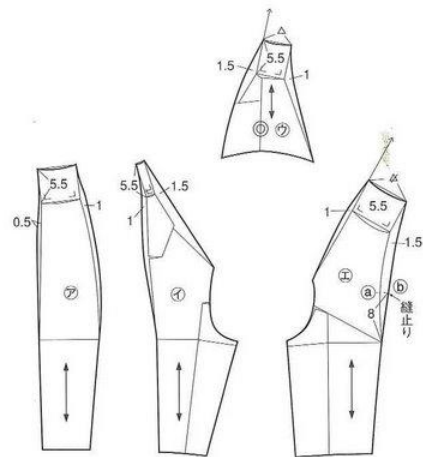


③ 見返しは、肩周辺が浮きやすいので幅広くとる。

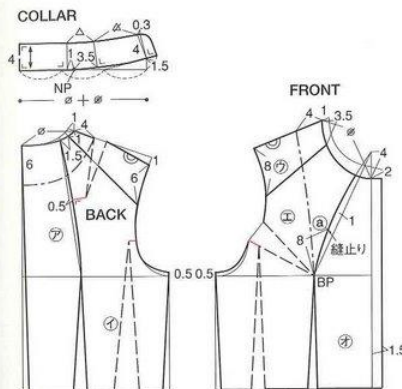
9ページ“球を着る”

スタンドカラーについた大きな衿がふわっとふくらんで、

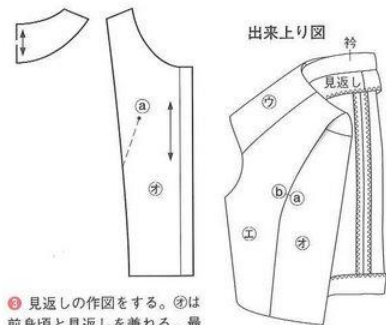
ボディに溶け込んだよう。



- ④ ダーツはすべてたたむ。
- ・袖ぐり線より高い位置をふくらみ始めとするので、②③④それぞれの袖ぐりを5.5cm高くし、元の袖ぐりの線を写した。
 - ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つなぎりよく線を訂正する。



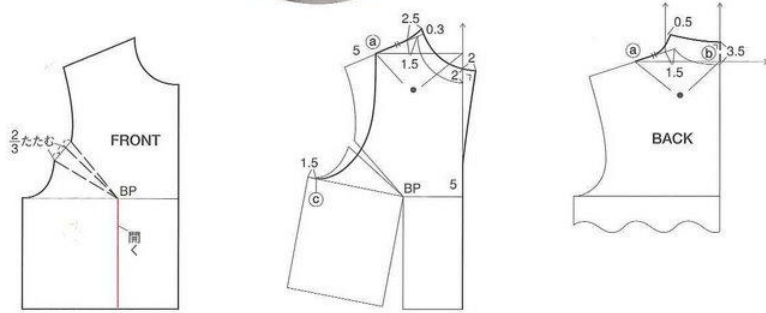
- ① 原型にバランスよく切替え線を入れる。②の前中心側の切替え線は、台衿幅分の上端にぶつかるように延長し、BPを通りつなぎりよく結ぶ。4cm幅のスタンドカラー(見返しも兼ねる)をかく。



- ⑤ 見返しの作図をする。⑥は前身頃と見返しを兼ねる。最後に④⑤を合わせて縫止りまで縫う。

10ページ“円を着る”

円形の布を2枚合わせ、間に体を入れてみた。
 体を優しく包み込むように、
 ラウンドのラインが生かされたトップスになった。



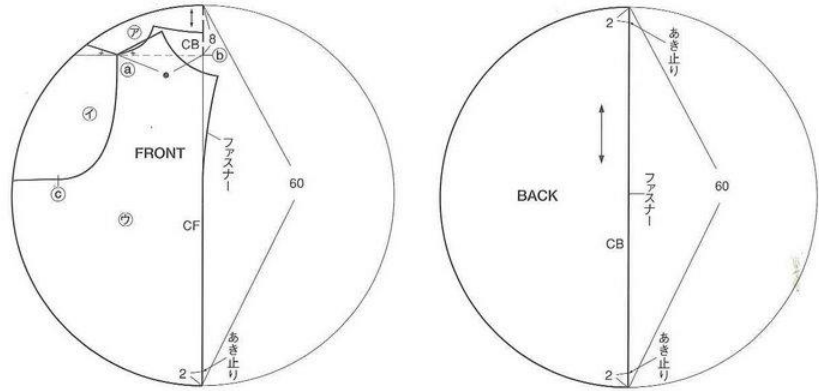
① 原型のArmホルダーツの $\frac{2}{3}$ をたたむ。

② 衿ぐりにハイネックラインをかく。前の衿ぐりが不足するので、前中心で追加した。肩幅を決め、②とする。

③ 後ろも前と同様、衿ぐりをハイネックにし、前肩幅と同じ長さの③をとる。③から水平に後ろ中心にぶつかる位置を④とする。

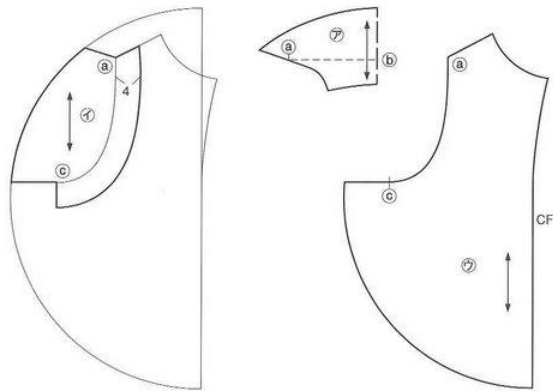


たたんだ状態



④ 半径30cmの円をかく。中心線から8cm入り、そこから水平に④寸法をとったところを②とする。②を含ませて前身頃、後ろ身頃を写し取り、②~④から円周に向かって切替えのラインをかく。ラインは自由でいいが、今回は③から水平に入れた。もう一本は②を水平に通る線に対して、前肩線と対称に同角度をとって、切替えのラインを入れた。

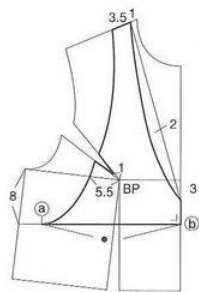
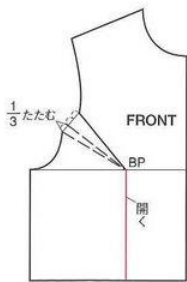
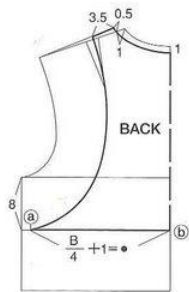
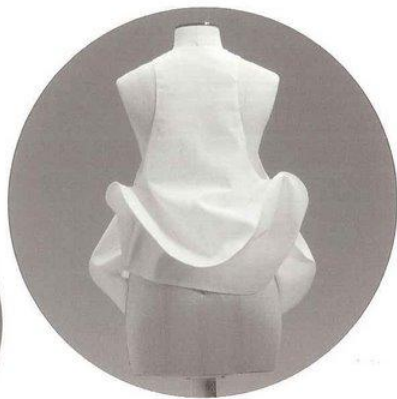
⑤ 後ろ身頃は半円を2枚合わせたパターンになる。後ろ中心はファスナーあきにした。



⑥ 前身頃のパターンは三つのパーツから成り立つ。⑦は②~③の線で、上図のように反転して写す。⑧は前身頃の袖ぐりに隠れている部分が必要になるので、4cm幅で袖ぐりに平行に追加する。

11ページ“円を着る”

円から垂直に体を出したところが、円錐のよう。
裾の、あきの位置や大きさを、
また、布地の重みによって変わるフォルムが楽しい。



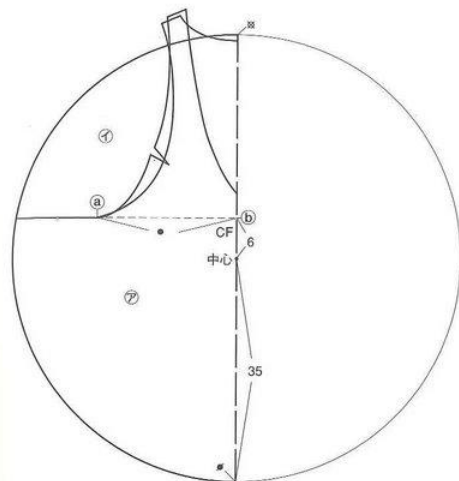
① 円から体を出したい位置を決め、そこに身幅をとり、a~bとする。

② アームホルダーツをたたみ、切り開く。

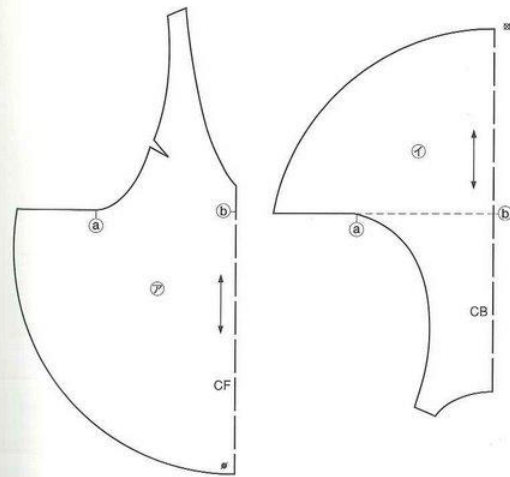
③ 後ろ身頃と同様に、前身頃にも同寸の身幅をとる。



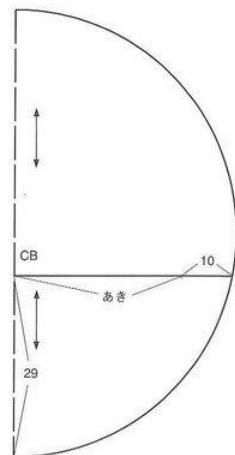
たたんだ状態



④ 半径35cmの円をかき、体を出したい位置を前中心上に決め、bとする。
bから水平線上に●寸法をとったところがaとなる。a~bを合わせて前後
身頃を写す。



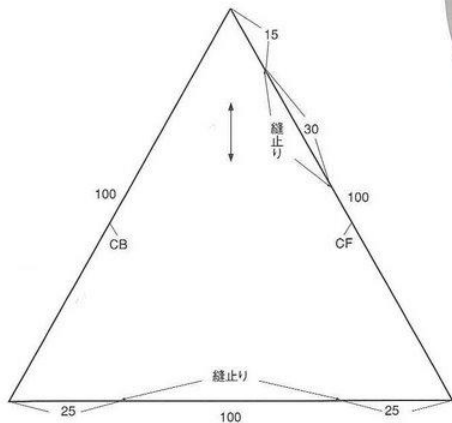
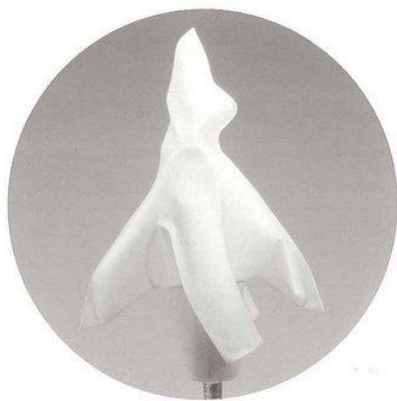
⑤ パターンは前身頃④と後ろ身頃④でできている。④のパターンはa~bの線
で反転して写す。



⑥ 裏側になる円は着用してから、あきをスナップなどで調節する。

12ページ“三角を着る”

オブジェのようなフォルムの服に体を入れてみる。
 ジオメトリックな立体に
 “着る”ことで表われる新鮮な表情が楽しくて、
 さまざまな形で試してみた。三角はとびきりシャープに。



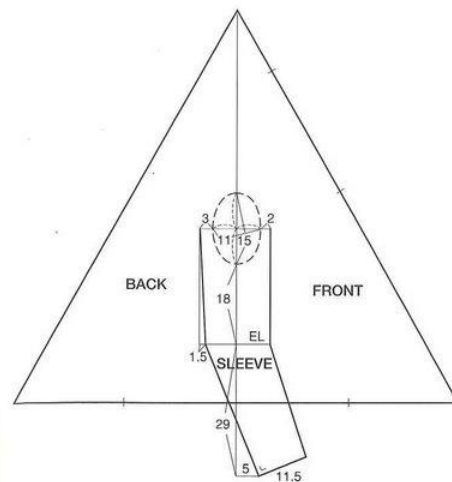
① 体が入る大きさの三角形を2枚裁つ。ここでは、1辺が100cmの正三角形にし、頭と裾にあきを作った。あきは、ファスナー(両あき)にしてももしろい表情になる。出来上がってから調節するといいい。



② 縫い合わせた三角形の布をボディに着せる。



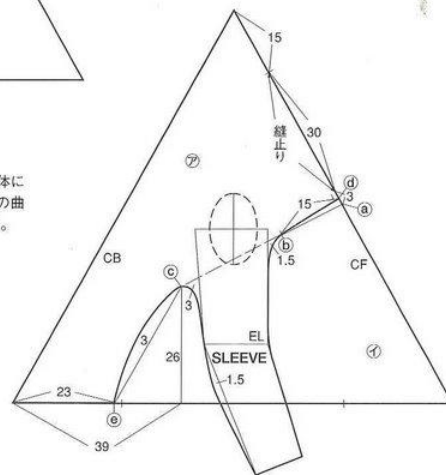
③ アームホールの位置を布にするす。



④ アームホールの位置を基準にして、袖の作図をする。全体に大きなフォルムなので、バランスを考えて袖丈も長く、ひじの曲がる角度も大きくしてオブジェとしてのおもしろさを追求した。



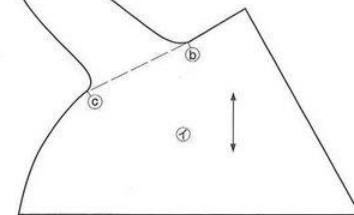
たたんだ状態



⑤ 身頃から袖に続く切替えのラインをパターンに入れる。位置はバランスを見て決めていいが、⑥～⑩を結ぶラインは腕つけ根を通るので、上すぎるとつかえてしまうので注意。

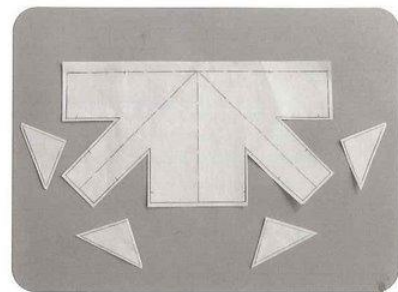
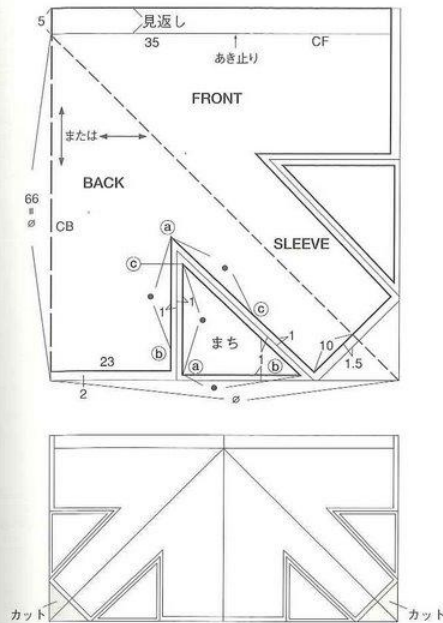
- 1 ①②を結ぶ。
- 2 ③から直角に、前中心に④をとる。
- 3 ④⑤を通して前袖のラインをかく。
- 4 ⑥⑦を通して後ろ袖のラインをかく。

パターンは②と④の二つのパターンできている。④のパターンは⑥⑦の線で袖をおこすように反転して写す。

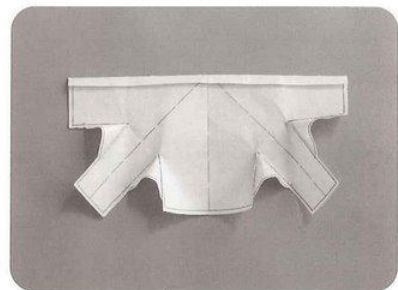


四角を着る

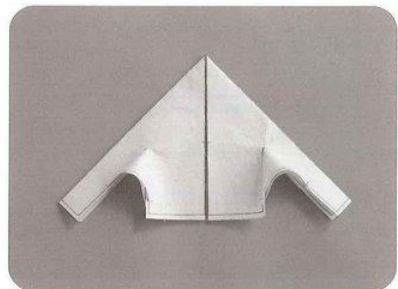
正方形の布をほとんど余すところなく、
最小限の用尺と縫製で仕上げたブルオーバー。
家庭洋裁があたりまえだった時代に母が教えてくれた、
まっすぐ縫うだけのカバー率の高い服……
そんなことを彷彿とさせるシンプルなデザインは、伸縮素材で作りたい。



① 裁断図

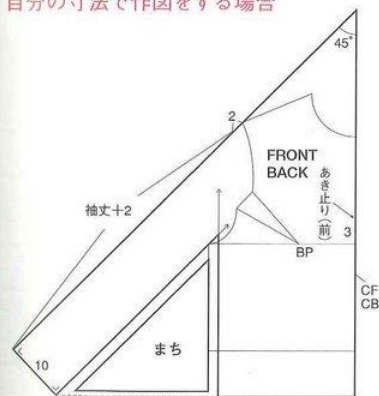


② 見返しを折り、まちをつける。



③ 前中心の裾からあき止りまでを縫う。袖下、まち、脇を縫い袖口、裾を上げる。前中心全体にファスナーをつけて、あきを自由にしてもいい。

自分の寸法で作図をする場合



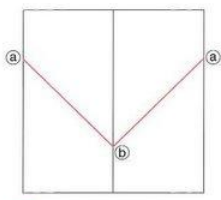
前中心線から、45°の角度でとった肩、袖山線を引き、そこに前原型をすえ、身幅のゆとりや着丈、袖丈などを決めていく。

ニヨキット

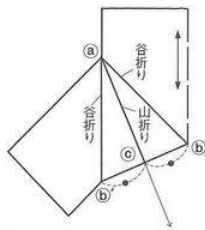
フィットしたボディから布が突き出した、ニヨキット！ 大波小波のように、波の角度は自由自在に。
不思議だが服にデザインされると、ドレープよりもモダンで、同じくらいエレガントなディテールだ。

平らな布からニヨキット

A

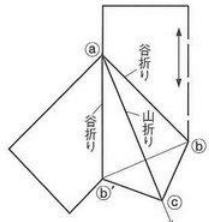


① ニヨキット出したい位置を決める (a~b~a')。



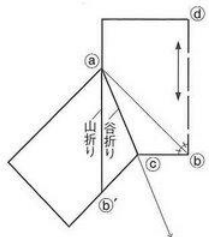
② シンメリーなので、半分のパターンとする。突出させたい高さ (b~c) の2倍をaを基点にして開き、b'とし、bとb'を直線で結ぶ。a~c~b間が90°になる。

B



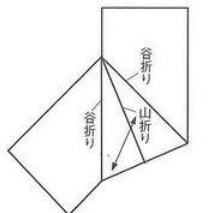
写真のようにcを鋭角に突出させるためには、山折り線上でb~b'を結んだ線より延長したところにcを求めればよい。

C



写真のように平らにするには、bが直角になるまでcをaに近づける。cの位置を動かすことによっていろいろな表情が見えてくる。

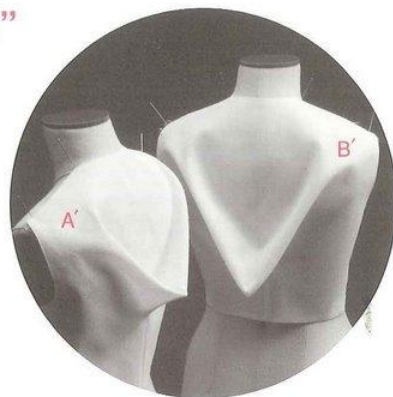
D



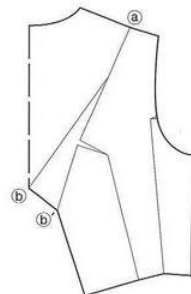
基本Aと同じ90°に突出させるパターンだが、布目を山折りバイアスにすると、カーブした柔らかな表情になる。

14ページ“後ろにニヨキット”

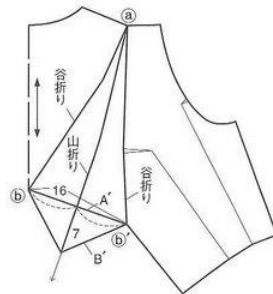
後ろ身頃にニヨキットと突出させてみた。
体にフィットさせたボディの
バックスタイルから突き出した布。
まるで鳥のくちばしのように。



① ニヨキット出したい位置を決める (a~b)。肩ダーツをa~b線上に移動する。



② 肩ダーツをたたんで切り開き、b'とする。



③ 高さが不足なので、aを基点にしてさらに開いた。ウエストダーツをたたんだため、a~bよりa~b'が長くなるが、少しなので外回りのゆとりとする。山折り線の決め方により、A'、B'のニヨキット、になる。



前にニヨキッと 解説36ページ

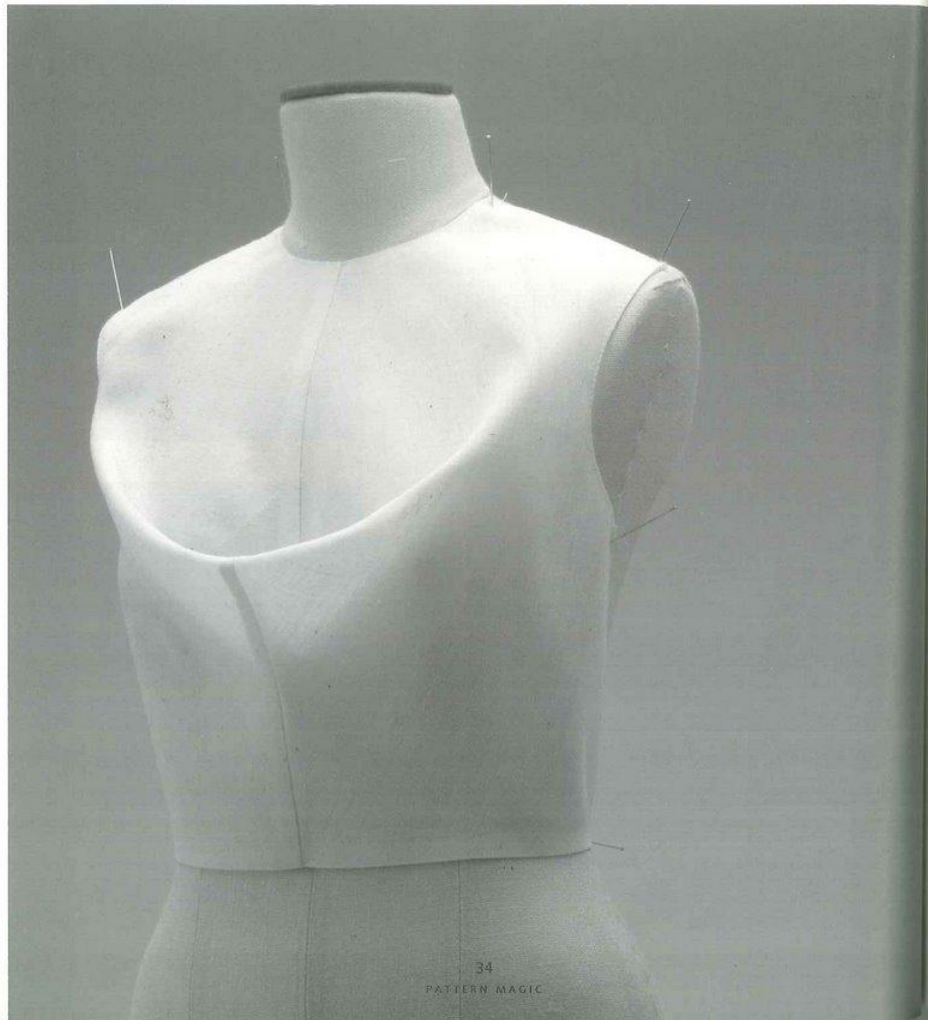
ソフトなのに力強い布の流れ。

前身頃からニヨキッと、持ち上がった。

胸もとに現われた、斬新なアクセサリーのようだ。

角度も思うまま、自由自在に、

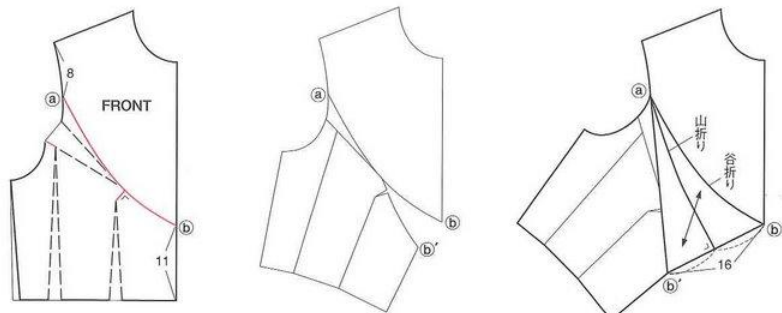
いくつかを組み合わせれば、さらに繊細な表情になる。



34 ページ “前にニョキット”

直角に突出させた“ニョキット”を前身頃に。

布目をバイアスにすることで、優雅に布が流れている。

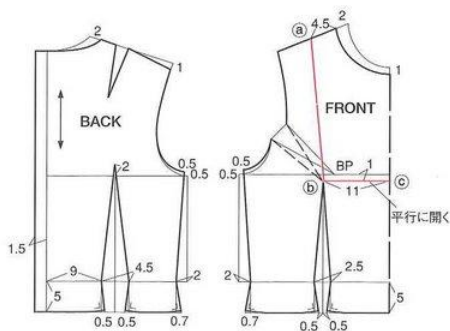


- 1 ニョキットと出したい位置を決める (a~b)。
- 2 ダーツをすべてたたんだが、高さ (b~b') が足りない。
- 3 高さの不足分をaを基点にさらに開く (ここでは16cm)。布目を山折り線にバイアスに通す。

35 ページ “前にニョキット”

肩からと、胸もとの“ニョキット”を

ネックレスのようにつけてみた。個性的なアクセントだ。



- 1 ウエストラインから丈を少し長くしたトップス。前身頃にa~b~cの切開き線を入れる。アームホルダーズをbまで移動する。
- 2 アームホルダーズをたたむ。b~cを平行に開き (ここでは10cm) b~cとする。a~bも切り開き (ここでは10cm)、a~b'とする。

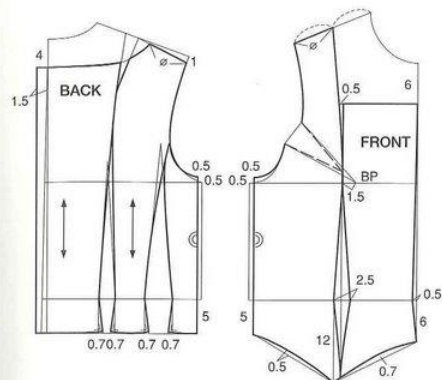
15 ページ “前にニョキット”

ブラウスの2枚重ね?

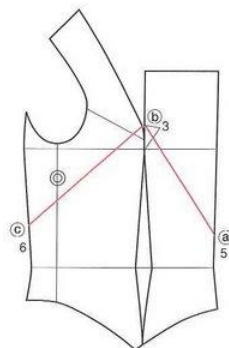
レイアード風“ニョキット”。

切替え線の位置、山折り線の長さにより、

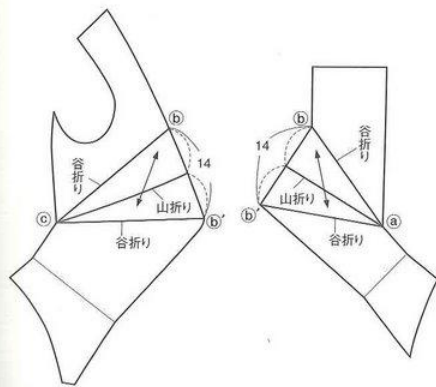
自由に布を突出できる。



- 1 ベースになるブラウスの作図をする。



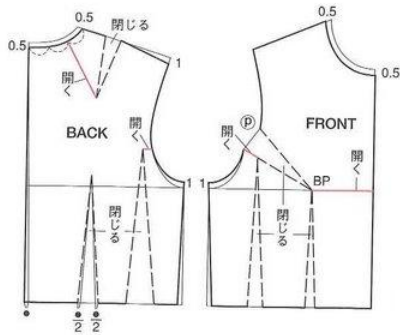
- 2 前身頃と後ろ身頃の脇を突き合わせ、アームホルダーズをたたむ。ニョキットと出したい位置、a~b~cをかく。



- 3 a~cそれぞれを基点として切り開く (ここでは14cm)。山折り線にバイアスを通す。

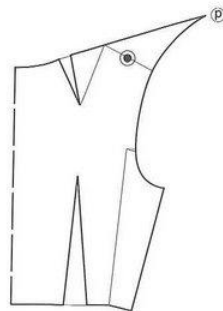
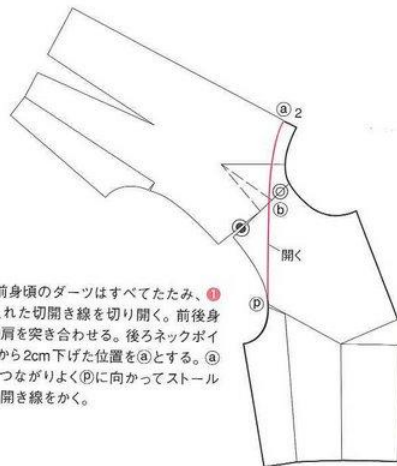
16ページ“ストールみたいに”

ストールをかけたように見えるのは、
肩に添うようにニョキッと出た身頃からつながった1枚の布。
切開き線のかき方で、ストールの表情が変わってくる。

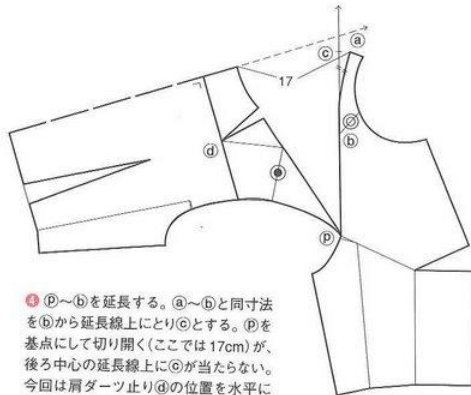


① 作図をする。衿こしがつかえるので原型から衿ぐりをカットする。前身頃は、バストポイントから水平に前中心に向かって切開き線を入れる。

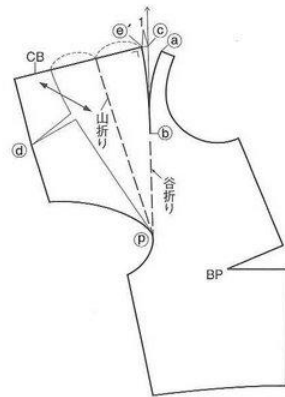
② 前身頃のダーツはすべてたたみ、①で入れた切開き線を切り開く。前後身頃の肩を突き合わせる。後ろネックポイントから2cm下げた位置を◎とする。◎からつながりよく◎に向かってストールの切開き線をかく。



③ 肩ダーツは衿ぐりに移動する。残っている前後の肩を合わせる。

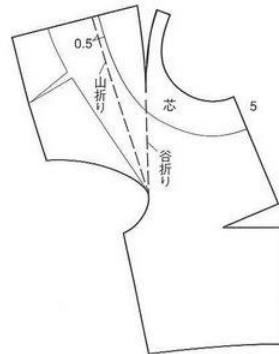


④ ④～◎を延長する。◎～◎と同寸法を◎から延長線上にとり◎とする。◎を基点にして切り開く(ここでは17cm)が、後ろ中心の延長線上に◎が当たらない。今回は肩ダーツ止り④の位置を水平に切替え線を入れる。



⑤ 後ろ身頃下側のパターン。

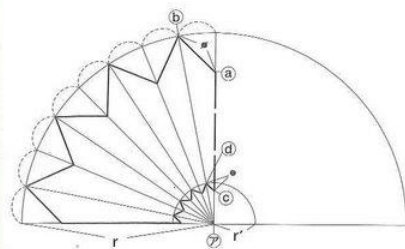
⑥ 後ろ中心の延長線が◎に交わるまで④を基点に肩ダーツを閉じる。◎から後ろ中心の延長線上の1cm下がった位置を◎とする。◎～◎～◎はダーツとして縫う。



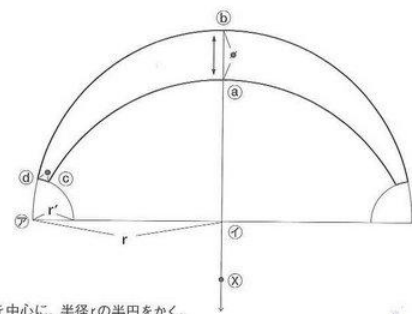
⑦ 着用時、衿ぐりの落着きが悪い場合は、衿ぐりの伸止めを兼ねて、芯をはったり、谷折りに途中までコバステッチをかける。

球のジャバラを作る

子どものころ、紙をたたんで開いて遊んだ、あの楽しさが忘れられない。
 三日月形を交互に折りながら、何枚もつなげたら球になる。
 シャープな陰影の半球は、繊細なディテールの袖になった。

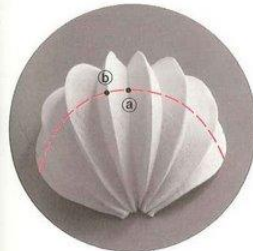


- ① O'を中心に、半径r'の半円をかく。
- ② Oを中心に、半径r'の半円をかく。
- ③ ジャバラに入れる折り目の本数で半円周を割る。
- ④ ジャバラの凹凸の幅を決め、ギザギザにかくと断面図が完成する。
 $a \sim b = \theta$ $c \sim d = \phi$

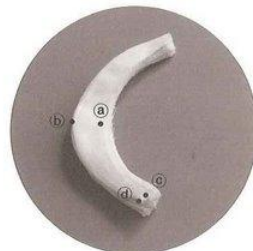


- ⑤ O'を中心に、半径r'の半円をかく。
- ⑥ O'を中心に、半径r'の半円をかく。
- ⑦ O'を直上して、外周とぶつかる点をbとする。
- ⑧ bから外周側のジャバラの幅 θ をとり、aとする。
- ⑨ 半径rとr'の円の交点をcとする。
- ⑩ dから半径r'の円周上に、中心側のジャバラの幅をとり、cとする。
- ⑪ cをaを円周とする円の中心を、O'から直下した線上に求めxとする。
- ⑫ xから弧をかき三日月形にする。この三日月形がジャバラのパターンとなる。
 折り目の数、パターンが必要になる。

広げた図



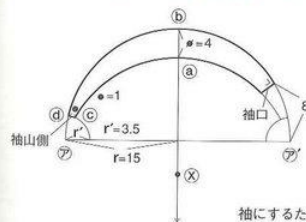
たたんだ図



斜めに引っ張った図



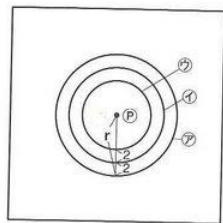
17ページ“球のジャバラ”



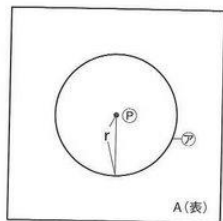
袖にするための標準的な寸法を示した。O'から8cm上がったところから直角をとり、袖口とした。袖は三日月形のパターン16枚で構成。袖を落ち着く位置にセットする。



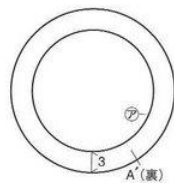
円のジャバラを作る



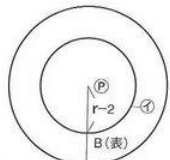
- ① Pを中心とした半径rの円を①とする。
Pを中心とした半径r-2cmの円を②とする。
Pを中心とした半径r-4cmの円を③とする。



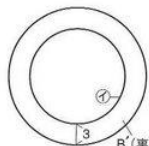
- ② 土台Aに半径rの円②をあける。



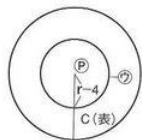
- ③ Aの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をA'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



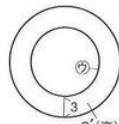
- ④ 円②とA'の外周でできたドーナツ形の円をBとする。



- ⑤ Bの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をB'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



- ⑥ 円②とB'の外周でできたドーナツ形の円をCとする。

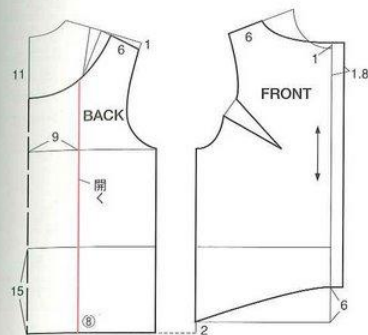


- ⑦ Cの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をC'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。

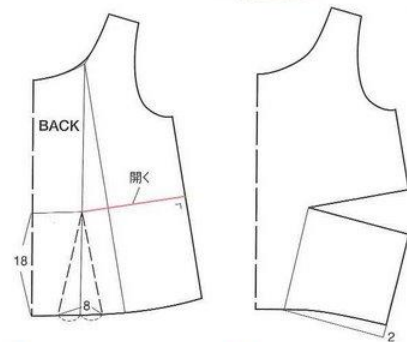
- AとA'が縫われ、A'とBが外周で縫われている。同じ繰返してBとB'、CとC'がジャバラに縫われ、構成されている。

18ページ“円のジャバラ”

円が少しずつ小さくなって、だんだんずれて……
奥のほうへ行くにしたがい、トンネルのように消えていく。
くびれた後ろのウエスト付近のジャバラのトンネルは神秘的で、
一瞬、体に穴があいてしまったように感じる。

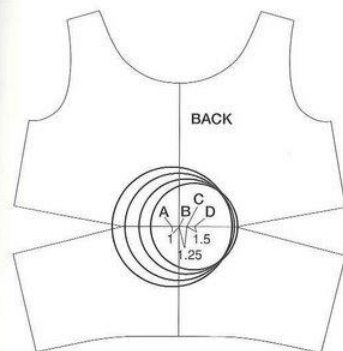


- ① 土台になる身頃の作図をする。後ろ身頃は体から離すため、切り開いてゆとりを出した。後ろにデザインポイントとなるジャバラがあり、重みが出るので前の袴ぐりを中心で上げた。



- ② 裾でダーツのようにたたむことにより、ふくらんだシルエットを作る。

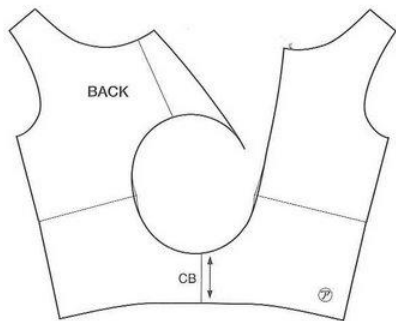
- ③ 裾をたたんで脇で開き、ダーツにする。裾は前身頃の脇丈と同寸にして裾線をかく。



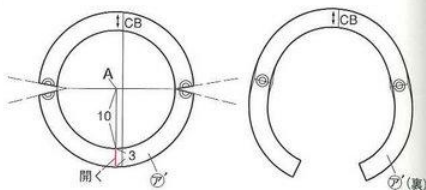
- ④ 左右のダーツ止りを結び、A~Dを中心にした円をかく。中心を移動させることで円が右に動く効果を出す。Aを中心に半径10cmの円をかく。Bを中心に半径9cmの円をかく。Cを中心に半径8cmの円をかく。Dを中心に半径7cmの円をかく。それぞれの円が胸ぐせダーツにかかることにより、ジャバラが立体的になる。



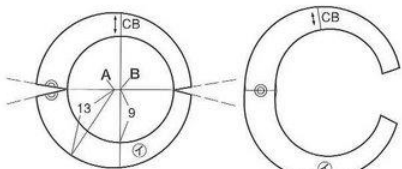
- ⑤ Aを中心に半径10cmの円をかく。ダーツはたたみ、袴ぐりで切り開く。



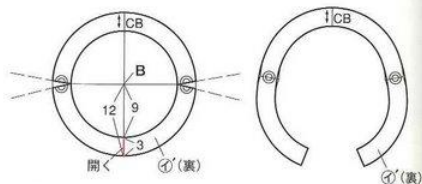
⑥ 円のラインを訂正する。後ろ身頃を⑦とする。



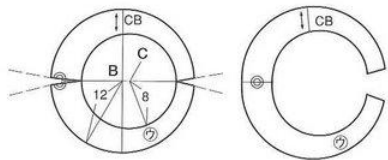
⑦ ⑥の裏側に見返しのよう、ジャバラを作る。Aを中心に3cm幅の奥行きをつけて、半径13cmの円をかき⑧とする。⑧のダーツを突き合わせて円の底で切り開き、縫い目とする。円のラインをつながりよく訂正する。⑧は裏側につくのでパターンは裏が出る。



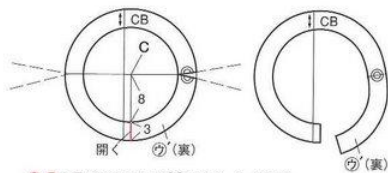
⑧ Bを中心に半径9cmの円をかき、⑧とつなげるため、⑧の外円と同じ大きさの円をかき(半径13cmの円)。縫い目を目立たせなくするため、はぎ目は脇にとった。ダーツを突き合わせてラインの訂正をする。



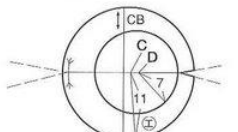
⑨ Bを中心に半径12cmの円をかき。そのうち3cmはジャバラの奥行き幅である。⑨と同様に⑨のパターンができる。



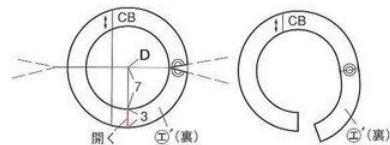
⑩ ⑧と同じようにして⑩のパターンを作る。



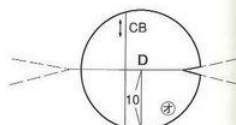
⑪ ⑨と同じようにして⑪のパターンを作る。



⑫ ⑩と同じようにして⑫のパターンを作る。



⑬ ⑪と同じようにして⑬のパターンを作る。

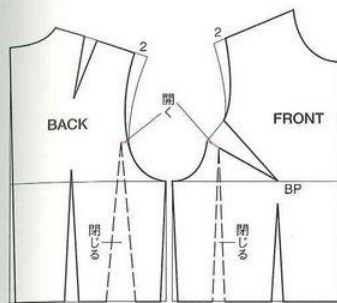
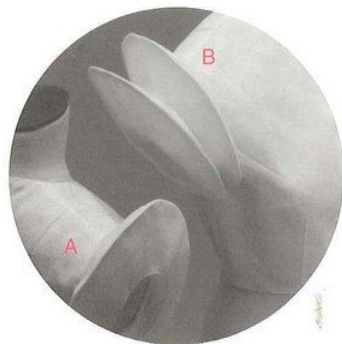


⑭ ⑫の外円と同じ大きさの円にし、⑭とする。

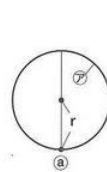
●縫い方は⑫と⑬、⑭と⑮、⑯と⑰、⑱と⑲を中表にして内側の円どうしを縫い、表に戻す。次に⑲と⑲、⑲と⑲、⑲と⑲、⑲と⑲の外円を縫う。

19 ページ “サークルスリーブ”

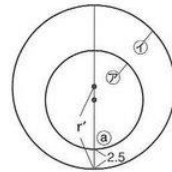
大、中、小の円で構成された立体は、水平に置くと、平たくなってしまふ、これもジャバラの一種だ。
ジャバラ一つでは、キャップスリーブ風。いくつもつなげていくと、ロボットの腕のよう。パーマネント加工できる素材で作りたい。



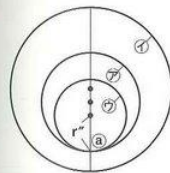
① 身頃の作図をする。肩幅が広く見えるデザインなので、袖ぐりを2cm内側に入れた。



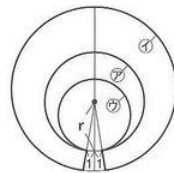
② アームホールに縫い代分2cmを足した円周になる円②をかき。これが、袖つけ線になる。
 $r = \frac{AH+2}{6.28}$



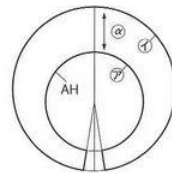
③ 袖の外円になる③をかき。好みの大きさがいいが、今回は半径 $r' = 12\text{cm}$ にした。r'は袖下で②より2.5cm下がったところからとる。



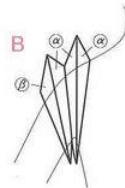
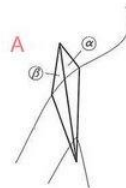
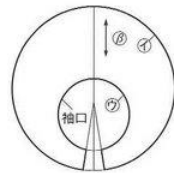
④ 袖口の円④をかき。④の半径rを求める。
 $r = \frac{\text{袖口寸法} + 2(\text{ゆとり}) + 2(\text{縫い代分})}{6.28}$
袖口寸法は肩線上で袖つけ線より5~6cm下がったところを1周した。



⑤ 縫い代分1cmを円⑤の中心からとる。



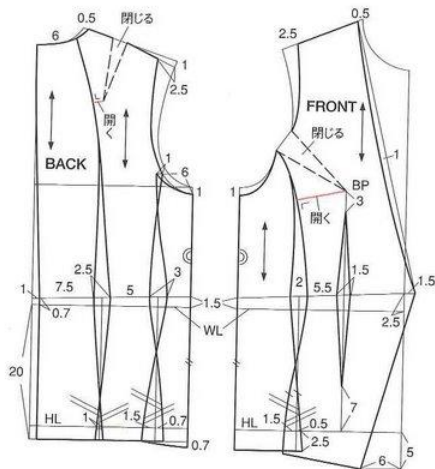
⑥ ④と⑤で構成されたパターンを⑥、④と⑤で構成されたパターンを⑦とする。この二つのパターンで袖ができています。



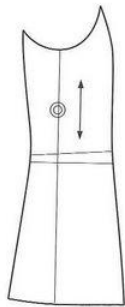
これは二つつけた、サークルスリーブだ。パターンはAと同じだが、⑨のパターンが三つと⑨のパターンが一つできています。数を増やす場合は、袖口幅と袖口の円の位置を考慮する必要があります。

20ページ“四角のジャバラ”

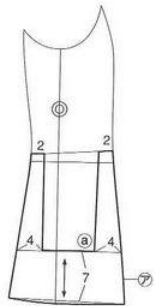
四角を重ねたジャバラは、きりとシャープな表情。
グレーディングしたように定期的に少しずつ小さくなって、
服のフォルムをいっそう美しく引き立てる。



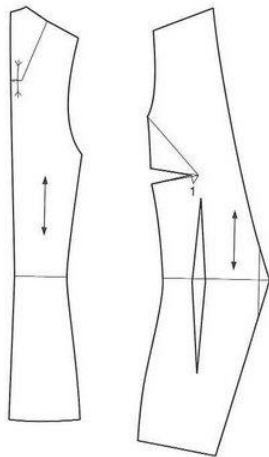
① ベストの作図をする。ウエストをフィットさせて、裾でフレアを出したデザイン。



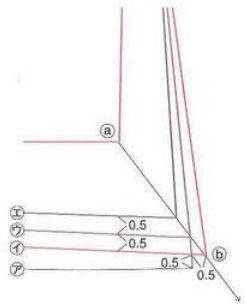
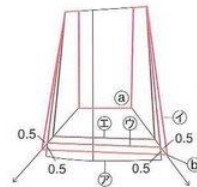
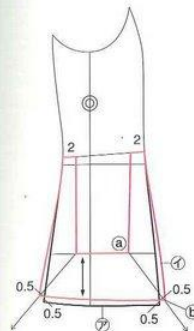
② 左の脇にジャバラを作る。



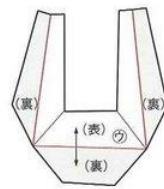
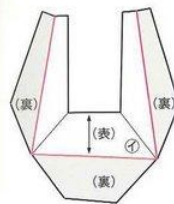
③ ジャバラのいちばん下になる脇布は、ハイウエストから下の部分になる。ジャバラにするための穴をあけ、④とする。



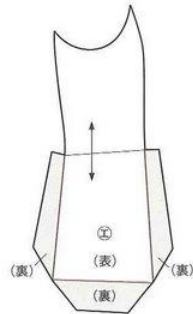
④ 肩ダーツ、胸ダーツをたんで展開する。



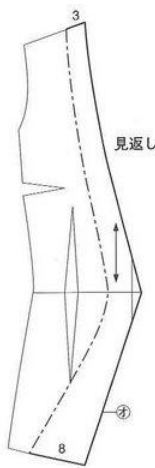
⑤ ⑦につなげる。2番目のジャバラを④とする。④は、⑦より裾から0.5cm短く、0.5cm幅を広くとり、できた角を⑥とする。④と⑥を直線で結ぶ。後ろ側も同様にする。④より0.5cm短く、④～⑥の線上に角をとって⑧、さらに0.5cm短くして⑨のジャバラとする。



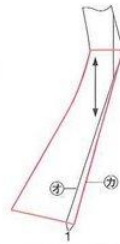
⑥ ④⑤⑥は、裾、両脇の裏側にくるジャバラを裁ち出して1枚でできている。



⑦ いちばん上のジャバラ⑦は、身頃のウエストから上の部分とパターンが一体になっている。また、⑧⑨のように穴はあけない。



⑧ 見返しを作図する。



⑨ 右前端的ジャバラのパターンを作る。⑧の見返しを④とする。左脇のジャバラのように、上になるほど小さくなるように④⑤のパターンも作る。④⑤は縫い返すのでパターンは2枚必要。

PATTERN MAGIC

Part 2 デコレーションの仕組み

ねじったり、つまんだり、

垂らしてみたり……

布のさまざまに変化する表情を

自由に服に取り入れてみる。

サプライズだけでなく、

そこにエレガンスが表現できたときは

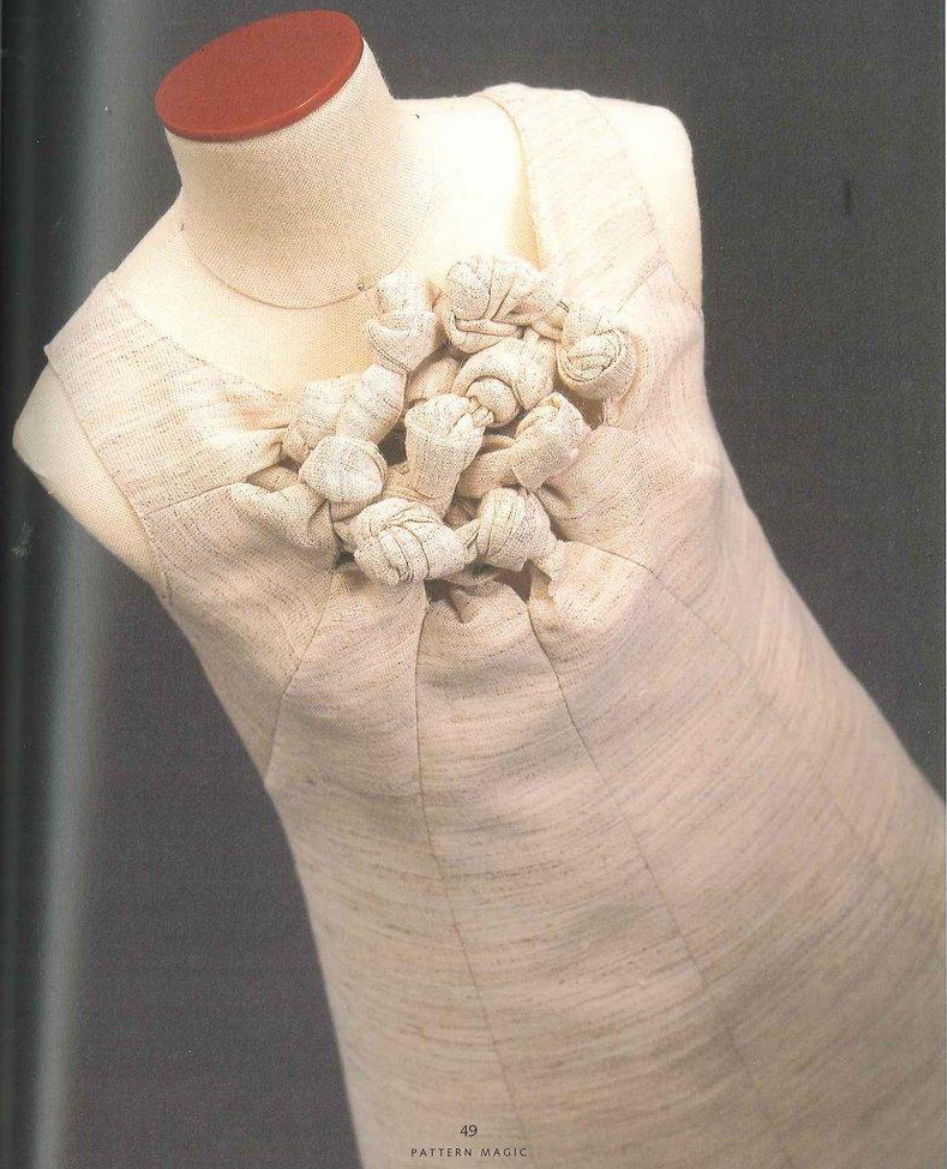
心からうれしい。

デコレーションの仕組みはぜひ、

原型をベースにして、写し取ってほしい。

そうすれば思いのままに、

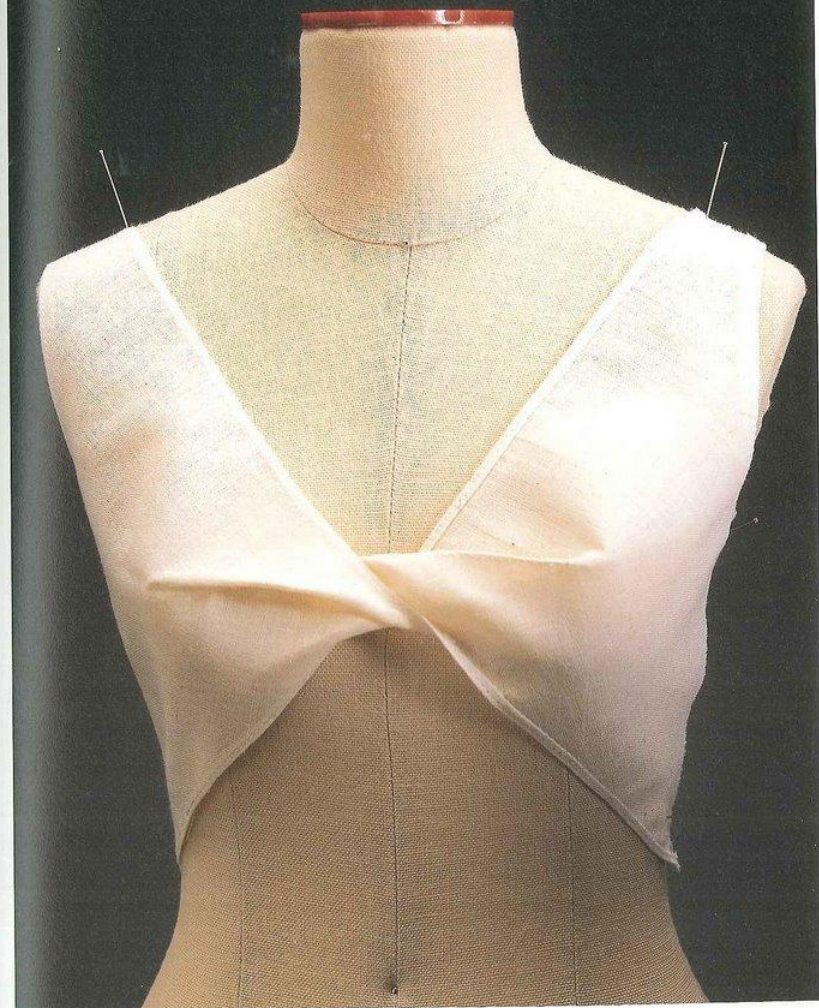
デザイン変化が楽しめる。



ジャングル 解説 64 ページ



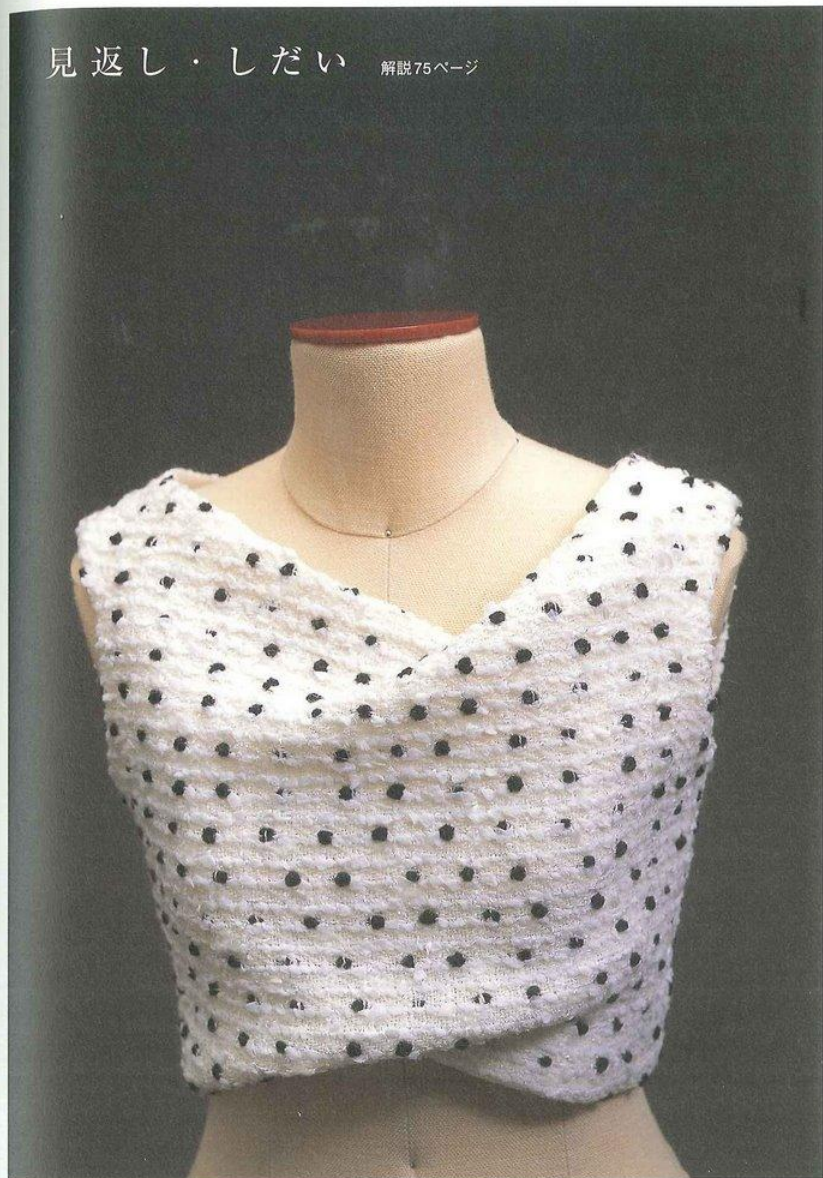
スター 解説 66 ページ

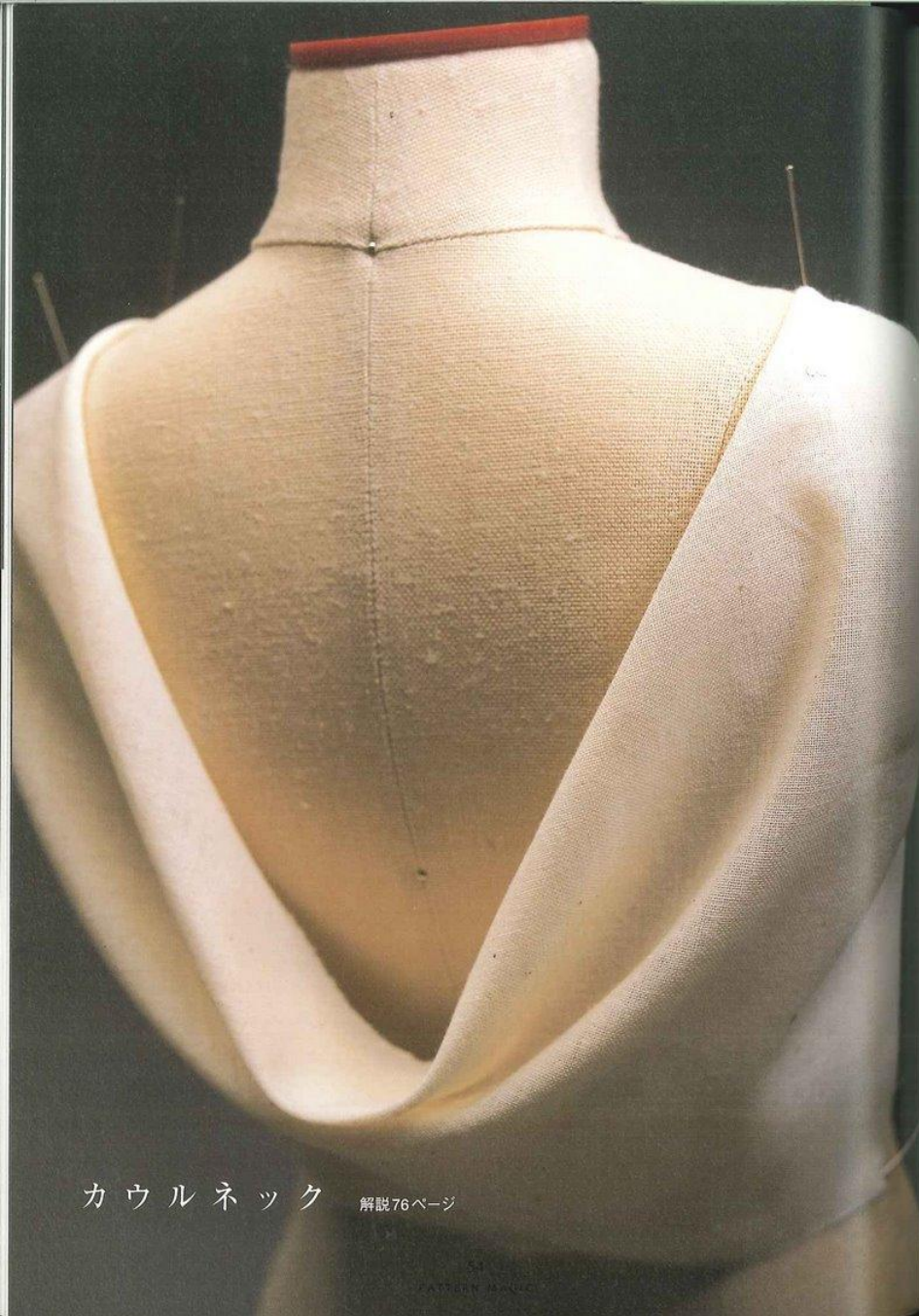




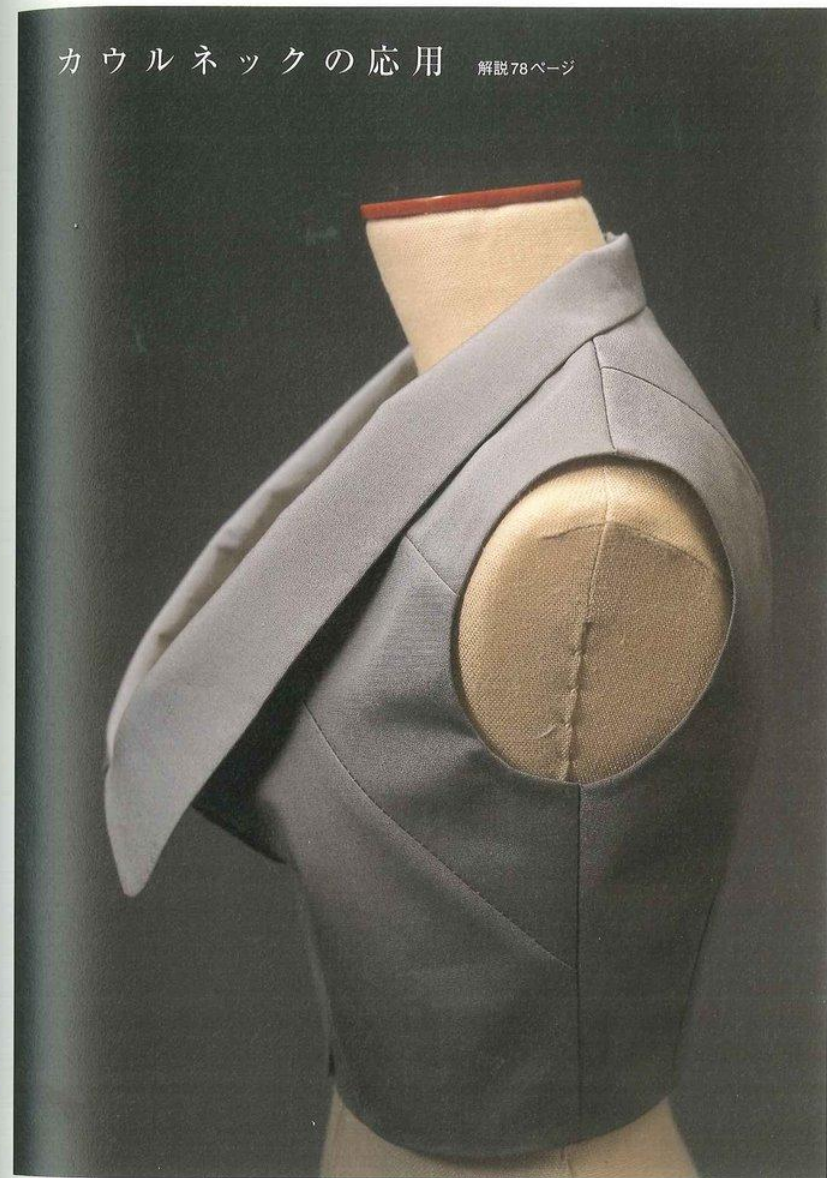
クイックターン 解説70ページ

見返し・しだい 解説75ページ



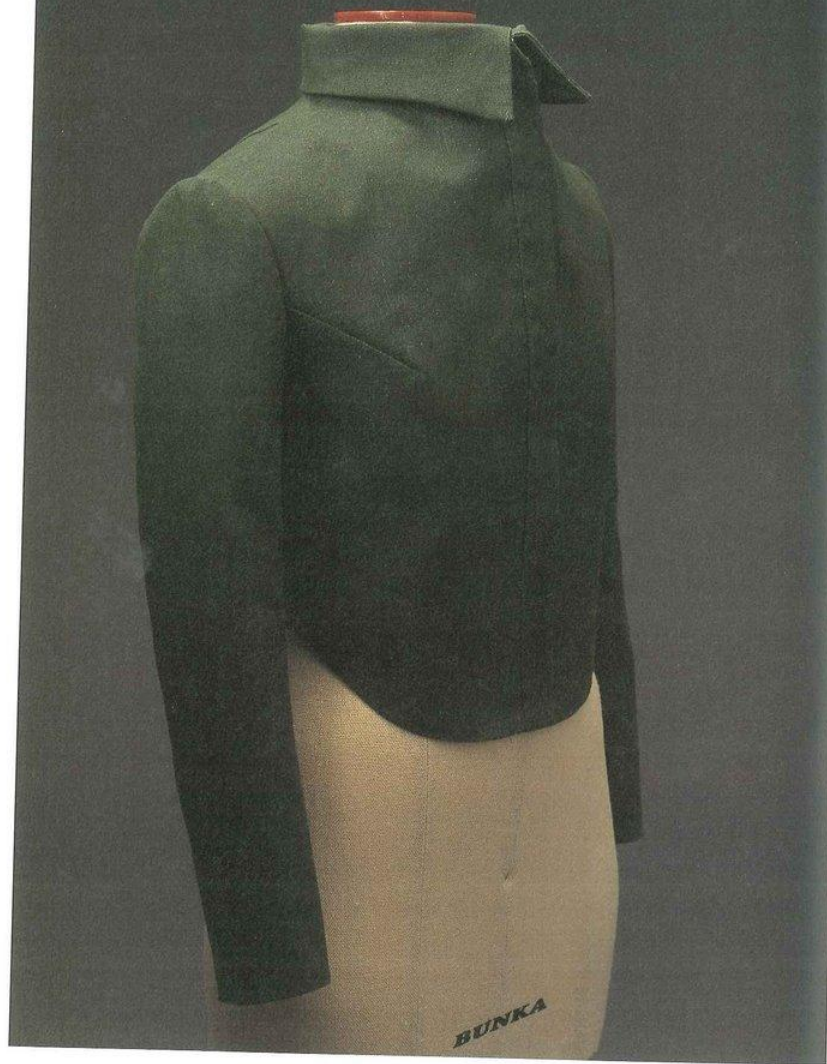


カウルネック 解説76ページ



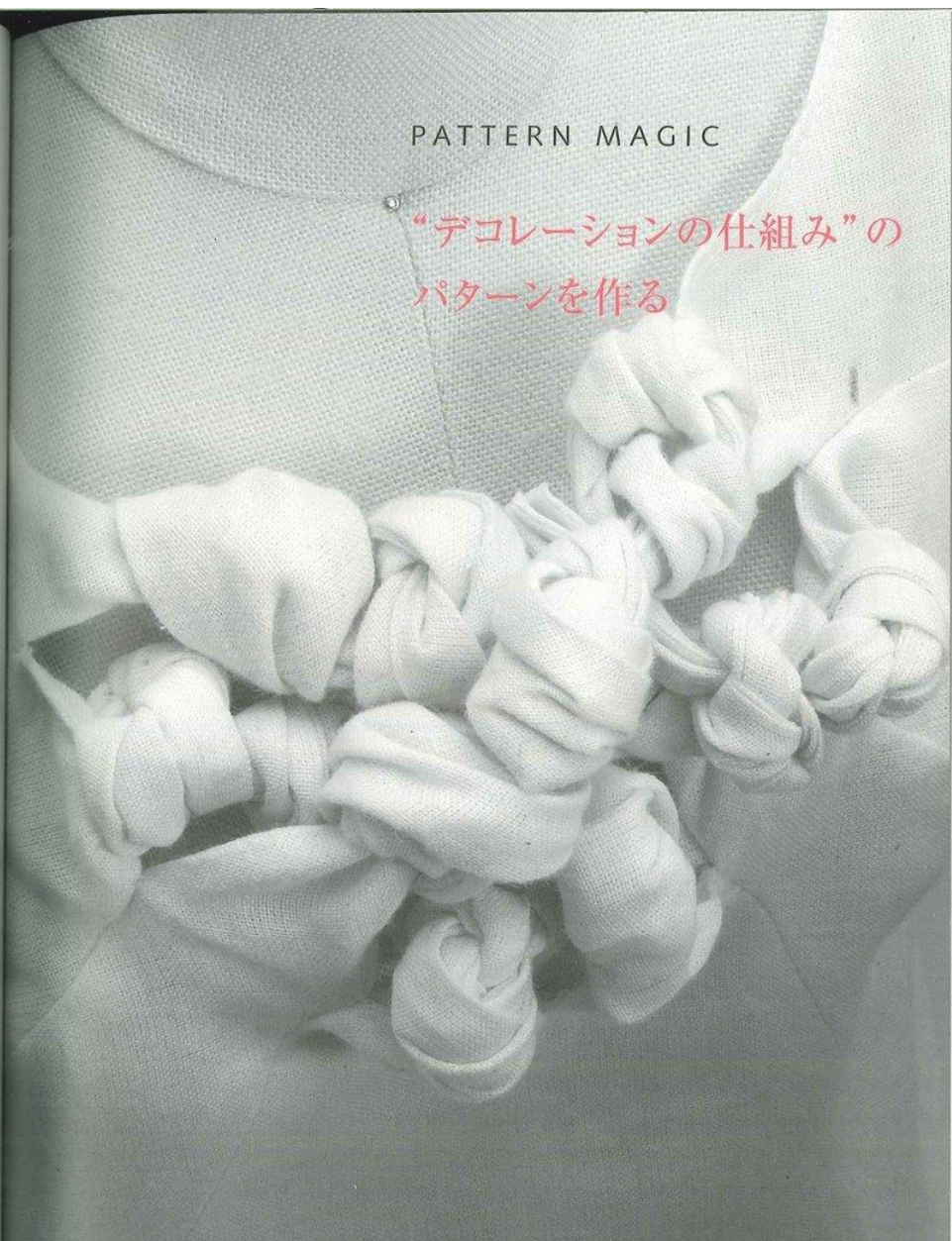
カウルネックの応用 解説78ページ

カウルネックの応用 解説79ページ



PATTERN MAGIC

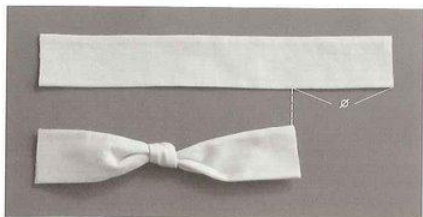
“デコレーションの仕組み”の
パターンを作る



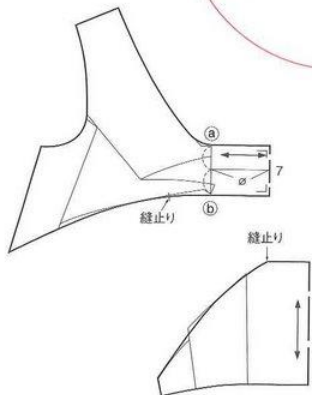
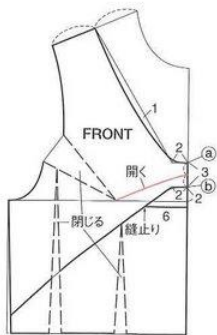
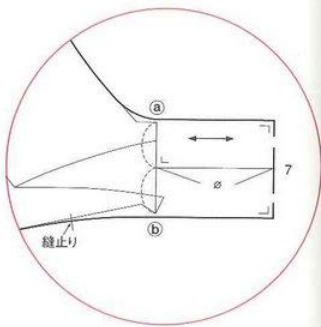
ノット

“結ぶ”という機能の形は、服の飾りとして充分美しいことに気がついた。
 フォルムに自然に溶け込むように、パターンにする方法を考えてみた。

ノットを身頃に入れてみよう



- 出来上りと同じ状態に縫い返したひも(幅7cm)を用意し、長さをはかっておく。
- ひもにノットを作り長さはかる。φ=ノットの長さになる。



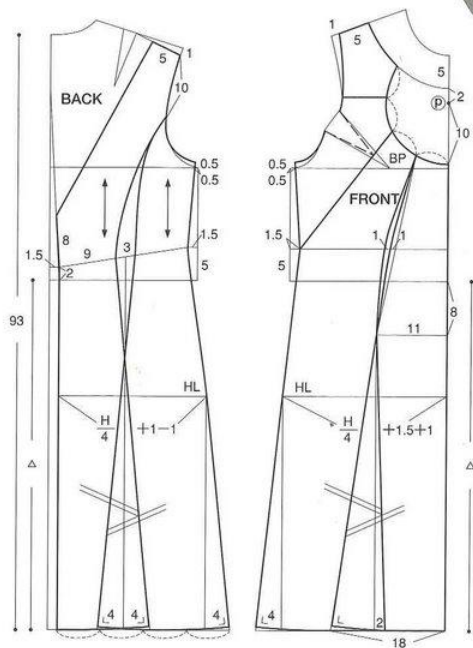
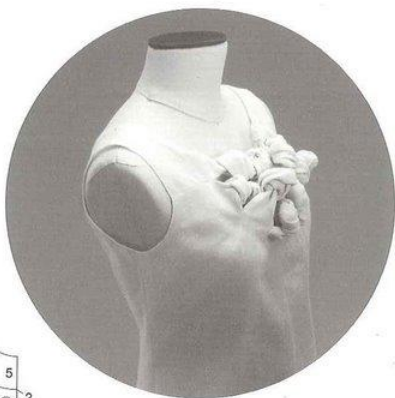
- 前身頃の作図をする。ノットの位置①②を前中心上にとる。③からノットの幅2cmをとり、衿ぐりと切替え線をかく。

- ダーツをすべてたたむ。④～⑥を2等分した位置からノットの長さφと、ひもの幅7cmをとり、つながりよく訂正する。

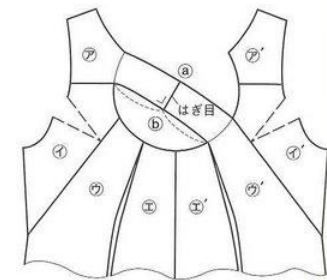


49 ページ “ノット”

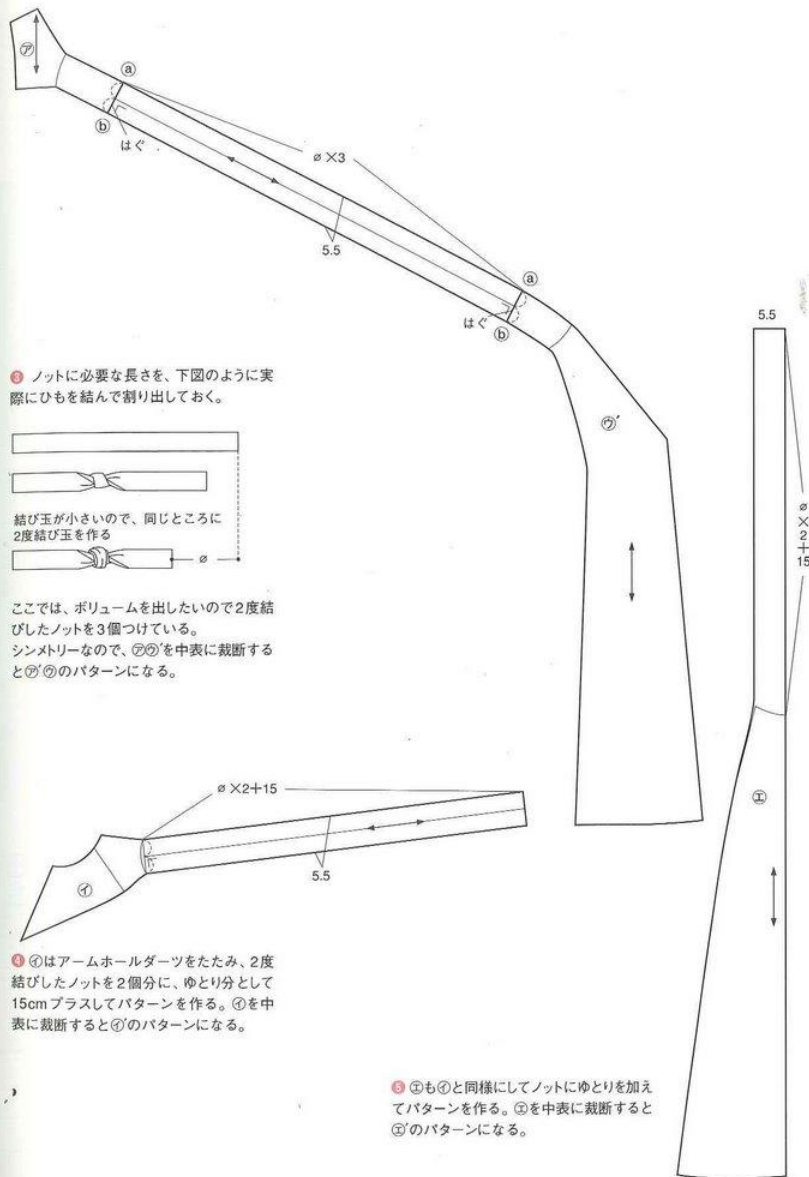
身頃にデザインされたノット(結び玉)。
鈴のように音が聞こえてきそうな気がする。
ランダムにいくつもつけたら、たくさんの音がにぎやかな、
インパクトのある服が出来上がった。



① 作図をする。㊸を中心に半径10cmのネックラインをかき、4等分した特
ぐりに向かって身頃を四つのパーツに分ける。



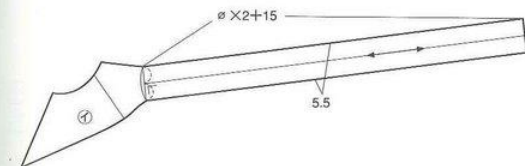
② 半身で四つのパーツに分けられた身頃を、右は㊸
㊹㊺、左は㊻㊼㊽とする。胸もとにノットを作る
方法はいろいろあるが、最初に左右からたすきよ
うにノットを作ったひもをかけると身頃が安定する。あ
とは好きなのところにノットを作り、あとから止めつける
方法をとってみた。まず㊸と㊹をひもでつなげる。ひ
もの半分位置㊸～㊹にはぎ目を入れる。シメトリ
なので㊸と㊹も同様にたすき掛けにする。



③ ノットに必要な長さを、下図のように実
際にひもを結んで割り出しておく。



ここでは、ボリュームを出したいので2度結
びしたノットを3個つけている。
シメトリなので、㊿を中表に裁断する
と㊽のパターンになる。

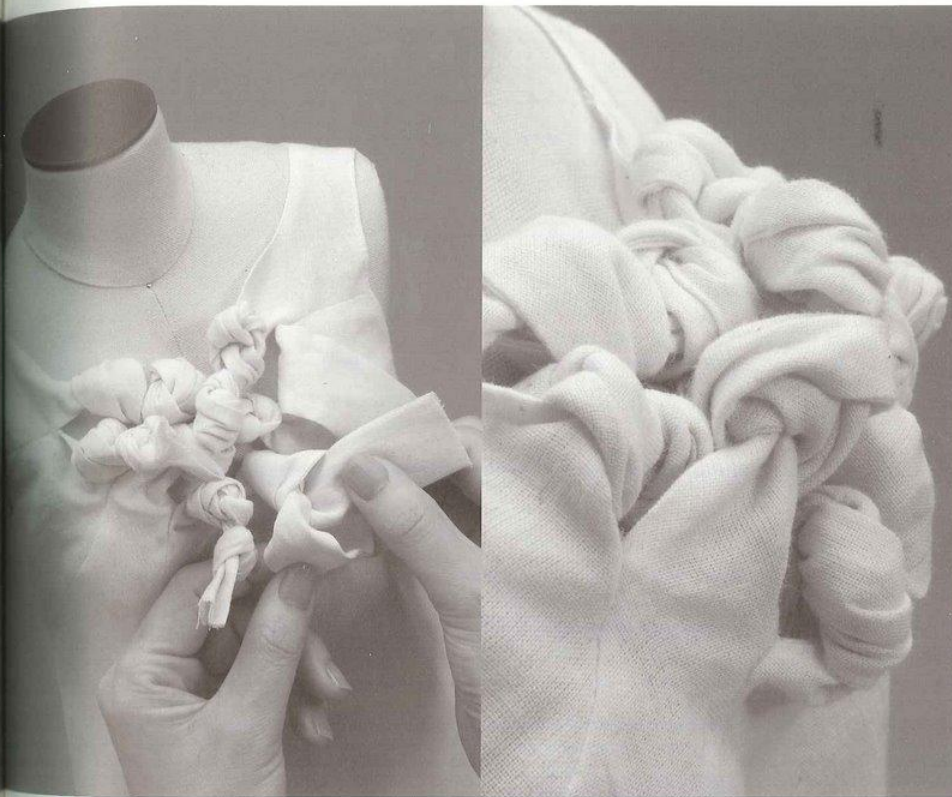


④ ㊾はアームホルダーツをたたみ、2度
結びしたノットを2個分に、ゆとり分として
15cm プラスしてパターンを作る。㊿を中
表に裁断すると㊽のパターンになる。

⑤ ㊽も㊾と同様にノットにゆとりを加え
てパターンを作る。㊽を中表に裁断すると
㊽のパターンになる。

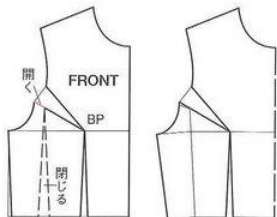


ノットのついたひもをたすきがけにした
らボディに着せ、ほかの4本はすさまを
埋めるようにノットを作り、裏から見えな
いところで縫い止める。

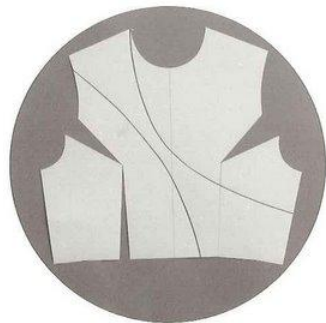


50ページ“ジャングル”

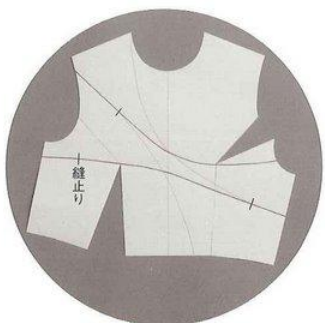
前身頃の、自由な切替えのラインが交差して、
重なり合って作る縦横無尽な表情、まるでジャングルのようだ。



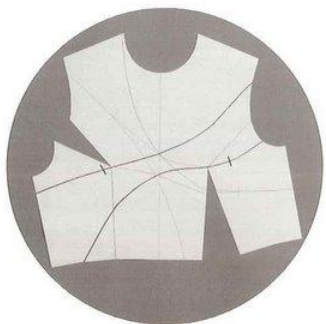
① 原型のダーツを切り抜く。



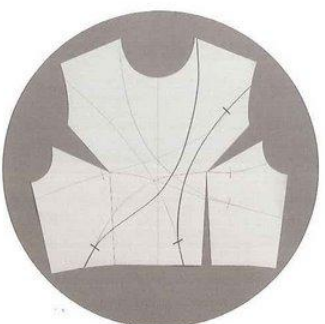
② 最初のパーツをかく。絵をかくように自由にラインを入れる。
このときダーツにかかる場合は、ダーツを突き合わせてラインをかく。



③ 二つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。

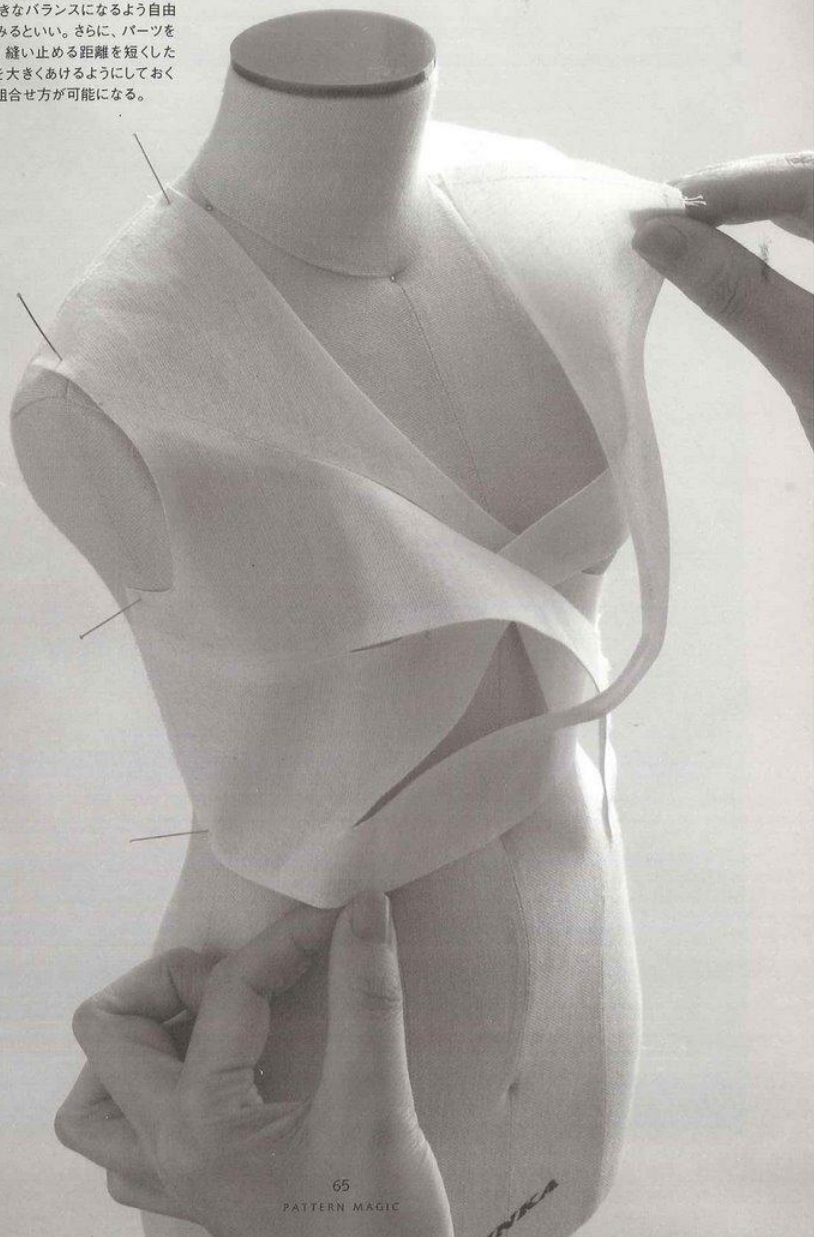


④ 三つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。



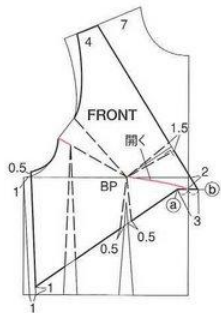
⑤ 四つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。

パーツの組合せ方を、いろいろ試してみるのは楽しい作業だ。右半身だけを縫い、左は好きなバランスになるよう自由に動かしてみるといい。さらに、パーツをかくときに、縫い止める距離を短くしたり、すきまを大きくあけるようにしておく、多くの組合せ方が可能になる。

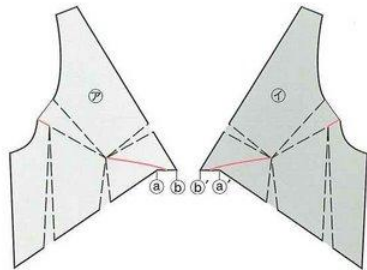


51 ページ “スター”

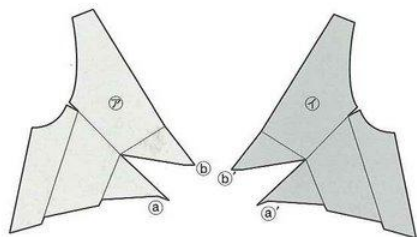
胸もとでねじって、伸縮素材のように体にフィットさせてデザインした。
胸もとの放射状の布の重なりが、星(スター)のペンダント。



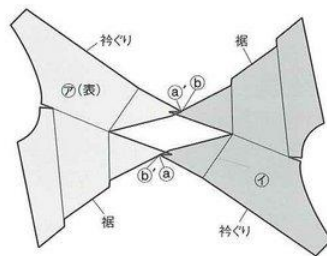
① 作図をする。体にぴったりと合わせると袖ぐりやアンダーバストに余りが生じるので、たんで胸ぐせに追加する。



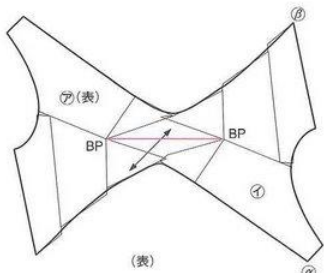
② 左右のパターンを②と④に分ける。②のa③を、④のa'③'とする。



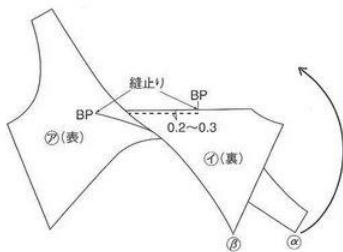
③ ダーツはすべてたたむ。



④ ④は上下を逆にする。②のbと④のa'、②のaと④のb'を合わせる。



⑤ 袖ぐりと裾線をつながりよくかく。②と④のバストポイント間を結ぶ。④の肩先を②、裾端を②とする。



⑥ ②を手前に折る。バストポイント間にコバステッチをかける。これは、ねじったときの折り山をはっきりをつけるため。②を後ろから回してねじる。ねじっているので④は裏面が出る。

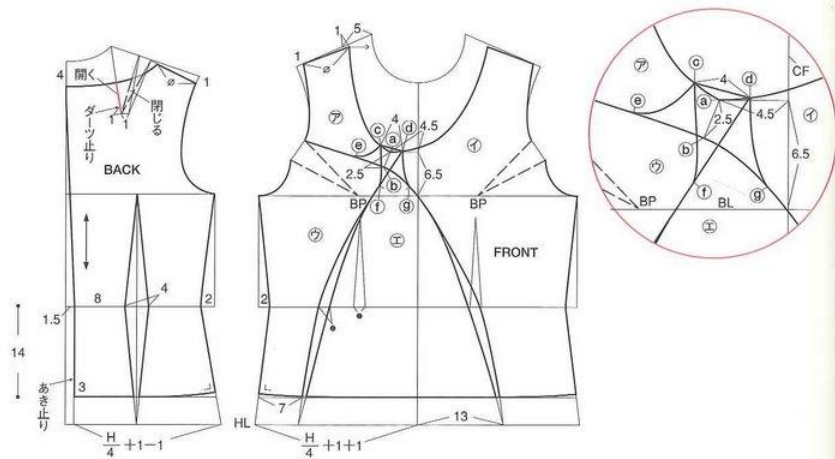


ドレープを クイックターン

水泳の折返し点で行なうクイックターンのように、
ドレープを回転してターンさせたら、より深い陰影が加わった。



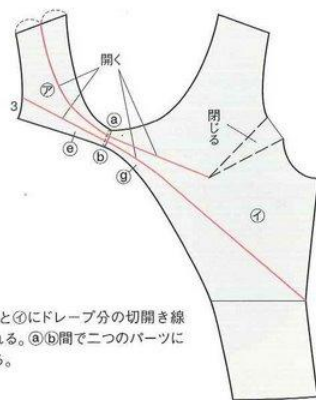
クイックターンの仕組みを知ろう



① 作図をする。前身頃にギャザーの寄っていない状態の切替え線を入れる。
まず②③をかき、②④をまたいだ③を自由に絵をかくように入れる。ウエストのダートは切替え線に入れる。



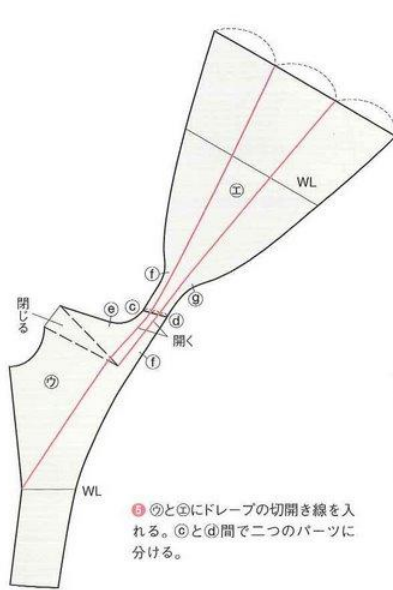
②④がターンして③につながっているのがわかる。



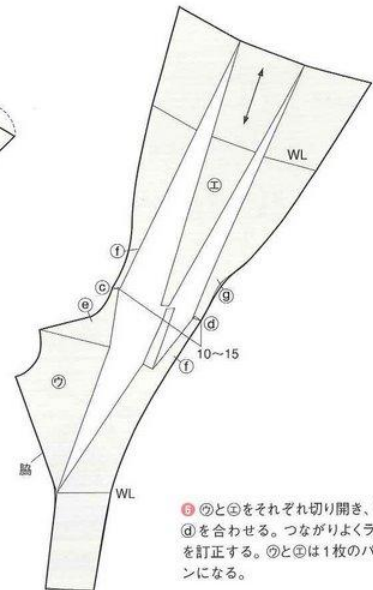
③ ②と③にドレープ分の切開き線を入れる。④⑤間で二つのパーツに分ける。



④ ②と④をそれぞれ切り開き、③と⑤を合わせる。つなぎよくラインを訂正する。②と③は1枚のパターンになる。



⑤ ②と⑤にドレープの切開き線を入れる。③と④間で二つのパーツに分ける。



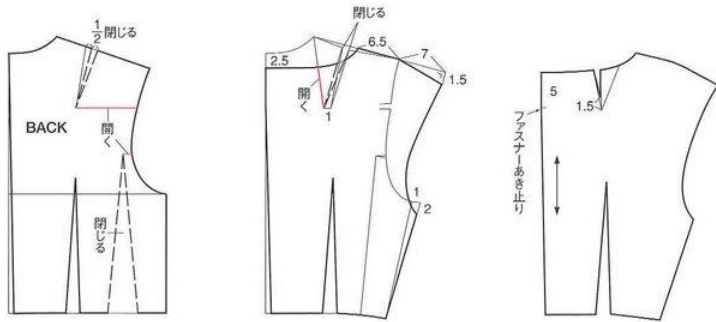
⑥ ②と⑥をそれぞれ切り開き、③と④を合わせる。つなぎよくラインを訂正する。②と③は1枚のパターンになる。

〈縫い方順序〉

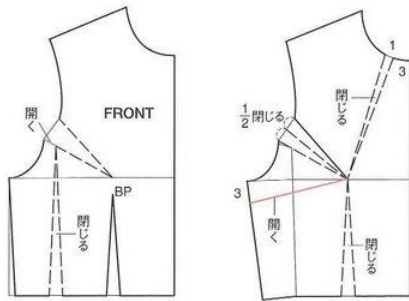
- ① ②と③を縫止り④まで縫う。
- ② ⑤を③～④でねじり、⑥⑦を縫止り⑧まで縫う。⑧は裏面が出る。
- ③ ④と⑤を縫止り⑥まで縫う。
- ④ ②③の部分は裏面が出るので、布選びは注意したい。

52ページ“クイックターン”

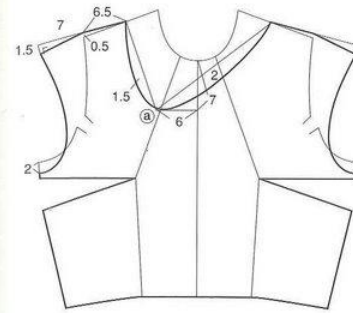
クイックターンしたドレープが、胸もとのスリットから現われた。
さらに複雑になった布の表情が美しい。



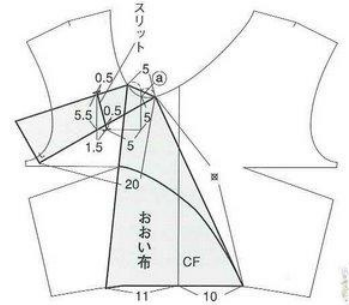
① 後ろ身頃の作図をする。



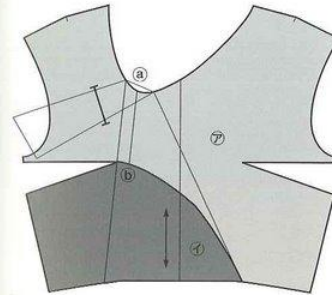
② 前身頃の作図をする。衿ぐりの大きくあいたデザインなので、前の衿ぐりの浮いてしまう分を閉じて脇ダーツに加える。



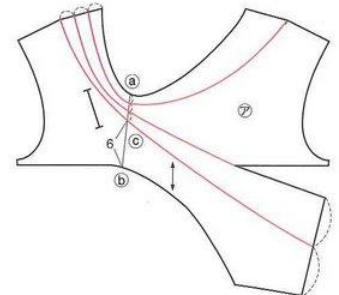
③ ダーツはすべて閉じる。アсимトリーな衿ぐりのラインをかく。衿ぐりのいちばん深い部分をaとする。



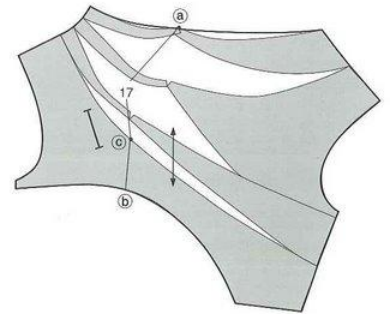
④ ウエストから衿ぐりに向かっておおい布をかき、スリットの位置を決める。衿ぐりでターンさせたおおい布をスリットにおさまるようにかき、おおい布で隠れるように、身頃の切替え線を入れる。



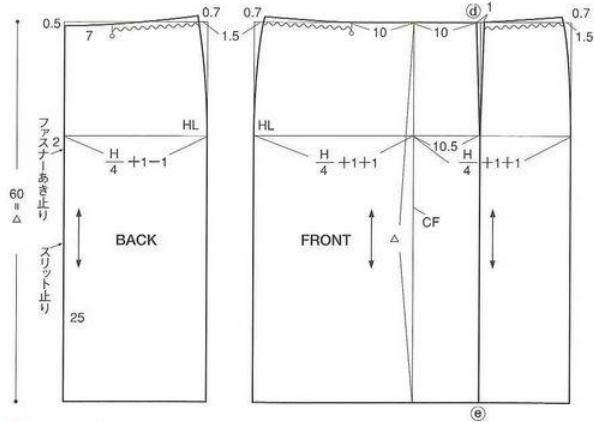
⑤ 前身頃は二つのパーツ、aとbに分かれる。aのaから、おおい布の端に平行にbをとる。



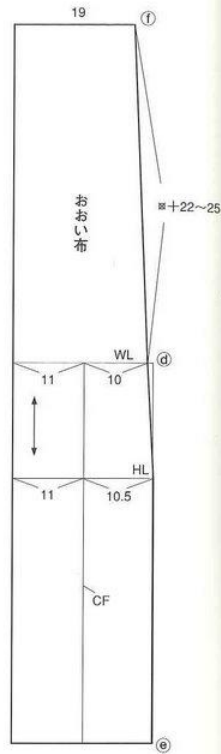
⑥ bから6cm上をcとする。a～c間を3等分し、ドレープの切開き線を、スリットの位置をはずしてかく。



⑦ a～c間を17cm開き、衿ぐり線をかく。



③ スカートの作図をする。

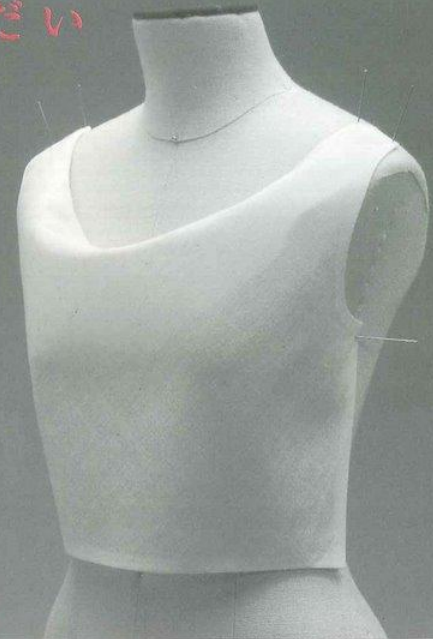


④ おおい布は前スカートのd~eに縫い込むので、スカートのパターンをベースにして作図する。ウエストラインからは身頃から離れていて、袴ぐりでターンし、スリットから出てくる仕組みになっている。ウエストから上の長さに、③の22~25cmを加えたものがおおい布の長さになる。



見返し・しだい

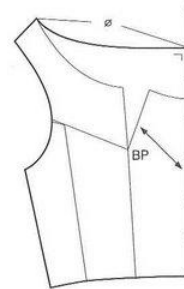
同じ身頃と同じ形の袴ぐりに、違う形の見返しをつけてみた。表には見えない見返しの形が、完成した服にシルエットのように現われる。ふだん脇役の見返しが表の表情を決めている。



基本の前身頃

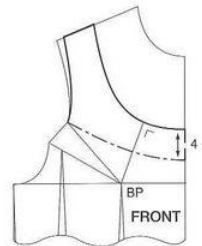


① 前身頃の作図をする。袴ぐりを丸くかき、バストポイントから袴ぐりに向かって直角に切開き線を入れる。袴ぐり寸法を ϕ とする。



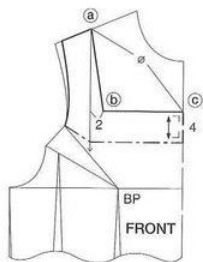
② ダーツをすべてたたみ、袴ぐりで開く。 ϕ 寸法になるように、前中心を延長した線に、身頃の袴ぐりのラインを引く。柔らかい表情を出したいので、布目は前中心でバイアスにするのがポイント。

見返しがカーブ



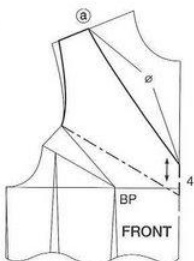
切り開く前の身頃の袴ぐりに見返し線を入れる。

見返しがスクエア



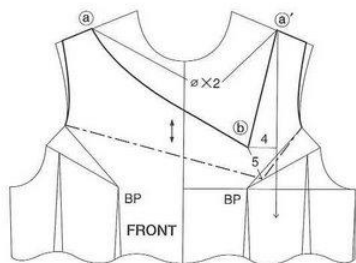
スクエアな衿ぐりをかく。①～③～④が寸法になるようにする。

見返しがV



Vネックラインの衿ぐりをかく。①から寸法になるようにする。

見返しがアシメトリー



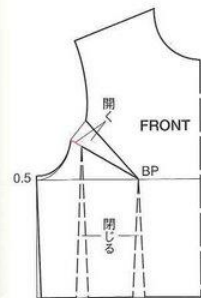
アシメトリーな衿ぐりをかく。①を決め②～④～⑤が $\varnothing \times 2$ になるようにする。身頃の衿ぐりが⑥で引っ張られるので、布が交差したように見える。

53ページ“見返し・しだい”

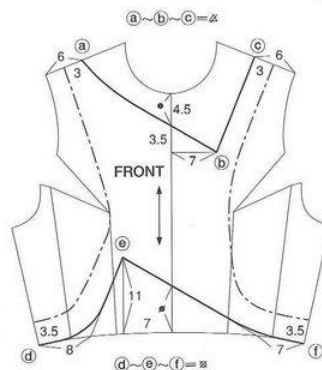
衿と裾のアシメトリーなドレープ。
複雑で、柔らかい布の動きが
絵画に描かれた衣装のようにエレガント。



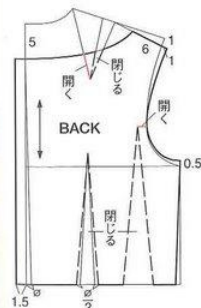
見返しによって衿ぐりや裾の形が変化するので、見返しを決めてから表の作図をしたほうが、形を出しやすいこともある。



① 前身頃の見返しの作図をする。ウエストダーツをすべてアームホールダーツに移動する。



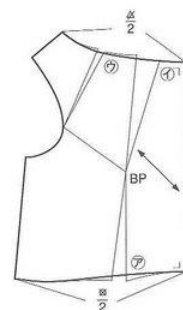
② アシメトリーな衿ぐりをかき、①～③～④の衿ぐり寸法を μ とする。布が重なって見えるように、裾は衿ぐりと逆のアシメトリーにかく。④～⑥～⑦の寸法を μ とする。



③ 後ろ身頃の作図をする。肩ダーツは衿ぐりに移動する。(後ろ身頃の見返しは省略する)



④ 前身頃の作図をする。前中心で衿ぐりは1cm、裾は3cmカットする。このとき⑤の μ の寸法より多くならないようにする。差が大きいほど、完成時の布の重なりが多くなる。



⑤ 裾が $\frac{\mu}{2}$ になるようにアームホールダーツをたたんで⑥で切り開く。残りのアームホールダーツをたたんで⑦で切り開く。次に衿ぐりが $\frac{\mu}{2}$ になるように⑧でさらに切り開く。衿ぐり、裾のラインをかく。

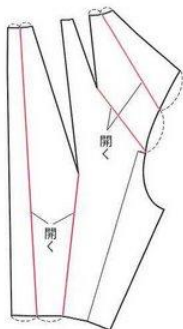
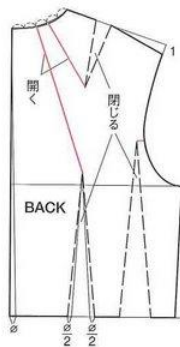
54ページ“カウルネック”

両肩からのエレガントな布の流れ。

横から見るとフィットしたボディからドレープが突き出ているようだ。

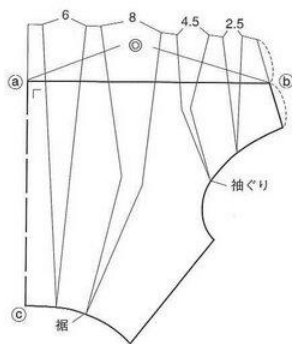
“カウルネック”は中世の高僧衣に由来するとか……

優雅なドレスに取り入れたい。

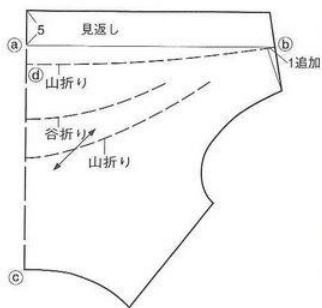


① ドレープを作図する。衿ぐりにドレープを作るので、ダーツはすべてたんで衿ぐりで開く。

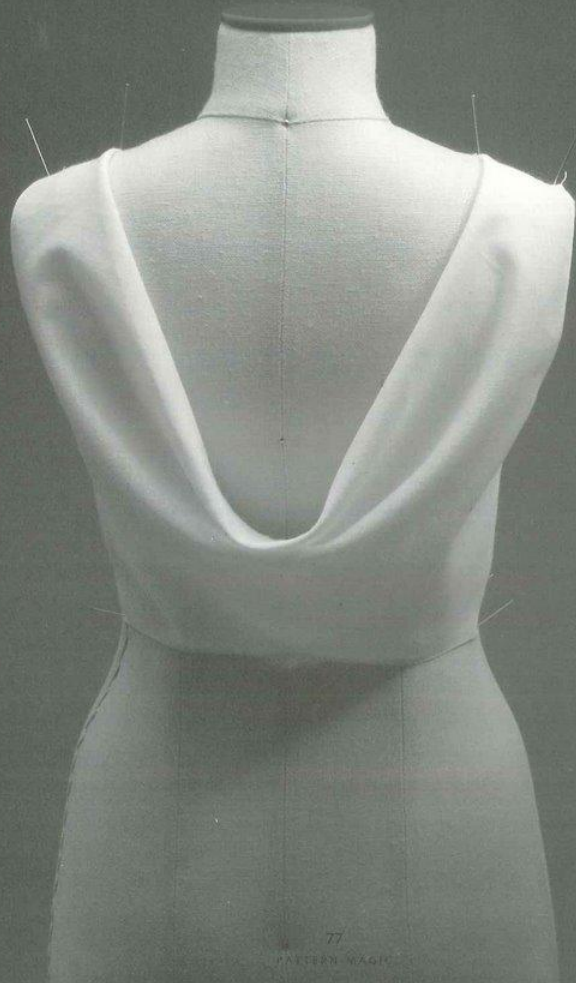
② 衿ぐりの切開き線を追加する。



③ 切開き分量は中心側を多く、肩線側は少なく配分して開く。肩幅を決め④とし、後ろ中心線と直角に交わる線をかき、後ろ衿ぐりとする。

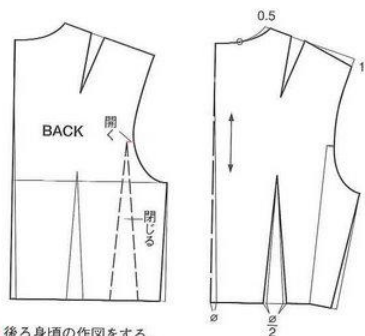


④ ③のパターンに、衿ぐり(④～⑤)上で見返し分5cmを追加した布を粗裁りする。ボディに着装すると④のように折り線が下がってくる。さらに落ち着くところに、2本目の山折り線ができる。

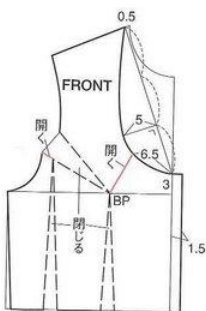


55 ページ “カウルネックの応用”

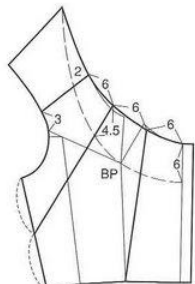
衿ぐりがふわっと広がったシルエットは、横から見ると花開いたゆりの花のようにエレガントだ。



① 後ろ身頃の作図をする。



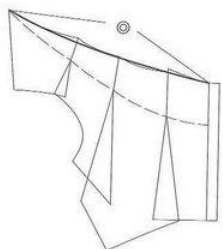
② 大きくあいた前の衿ぐりをかく。



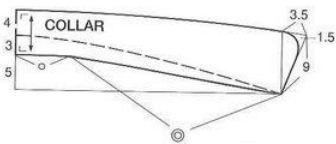
③ ダーツはすべてたんで衿ぐりで開く。衿ぐりの外側に、バストポイントを通る大きいカーブを破線でかく。この破線は花びらが開くように衿ぐりが開いていくスタート位置である。



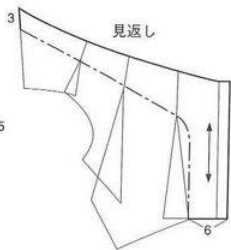
④ 切替え線と破線の交点から、衿ぐりを広げる。



⑤ パターンをつなげて衿ぐりを訂正する。

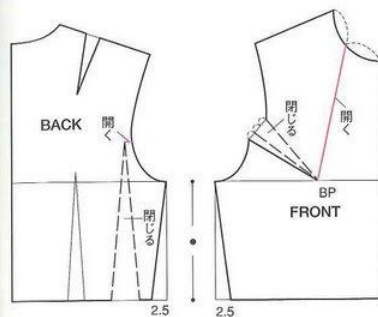
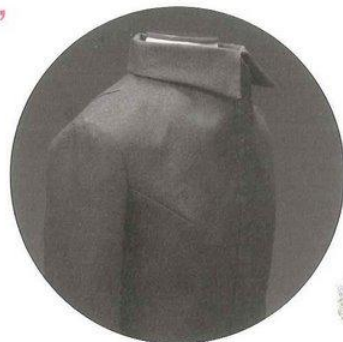


⑥ 衿の作図をする。

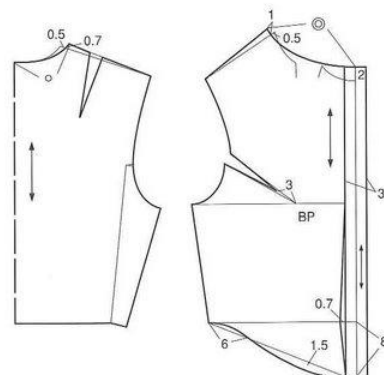


56 ページ “カウルネックの応用”

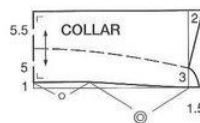
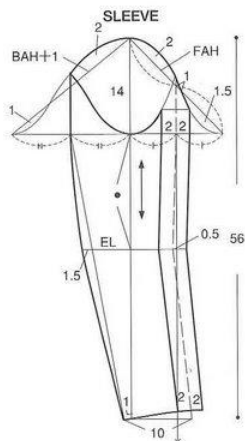
衿ぐりを大きく切り開くとドレープになるが、少しだけ開いて、はと胸のようなシルエットのシャツにしてみた。張りのある布で作るとより効果的だ。



① 作図をする。アームホールダーツの $\frac{1}{3}$ を閉じて、衿ぐりで開く。残りの $\frac{2}{3}$ はダーツにする。



② 着用するとつれるので、衿ぐりを前後それぞれ追加する。



③ 衿と袖の作図をする。個性的なボディとのバランスをとるため、袖はほっそりした長めの丈にした。

PATTERN MAGIC

Part 3 消える……

パターン マジック!

本物のマジシャンのように

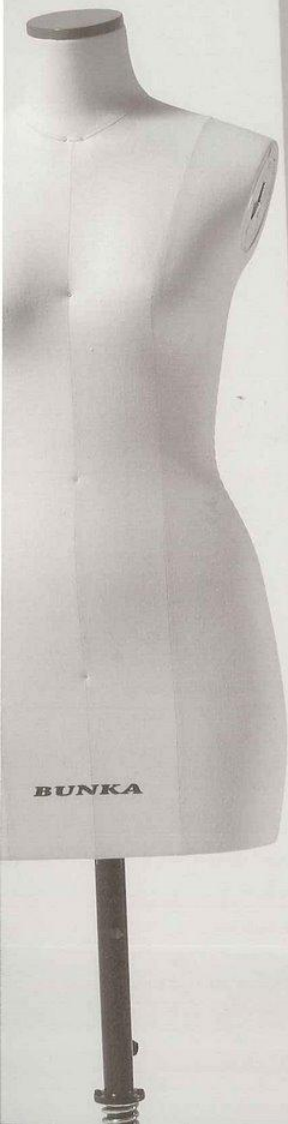
パターン操作で

服の一部が消せたらおもしろい、と思った。

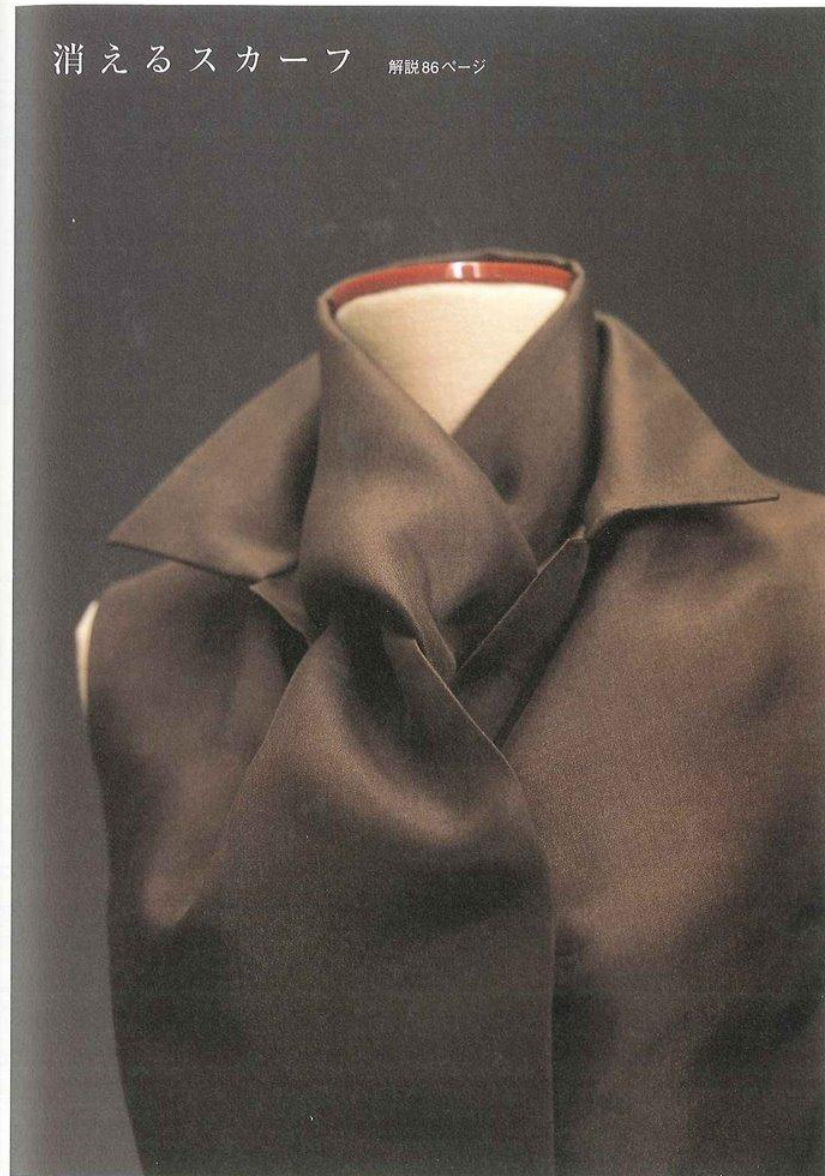
トロンプ・ルイユ (だまし絵) という

目の錯覚ではなく、

種も仕掛けもパターンしだい。



消えるスカーフ 解説 86 ページ



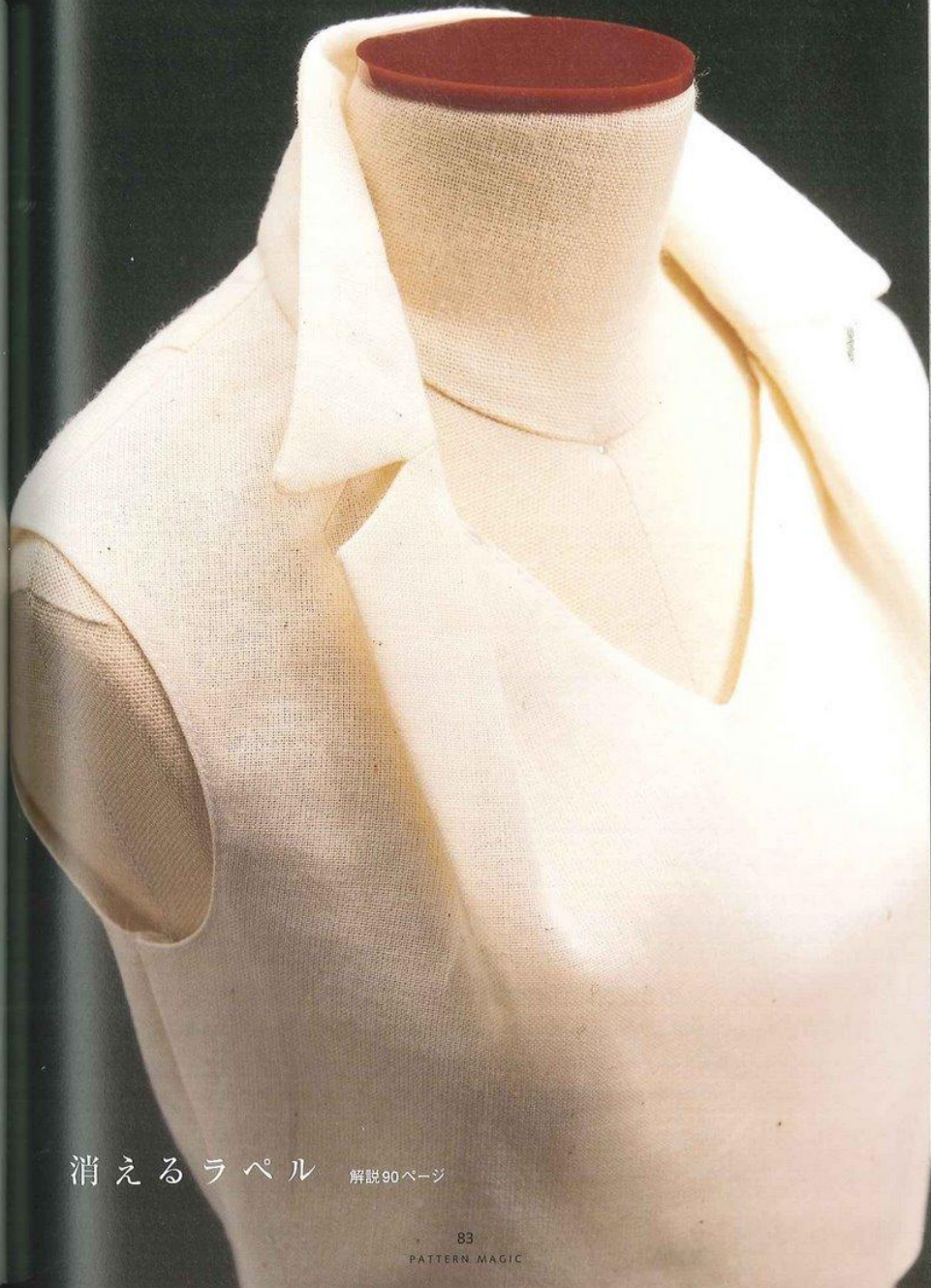
消えるネクタイ 解説88ページ



82

PATTERN MAGIC

消えるラペル 解説90ページ



83

PATTERN MAGIC

消えるポケット 解説92ページ

A



B

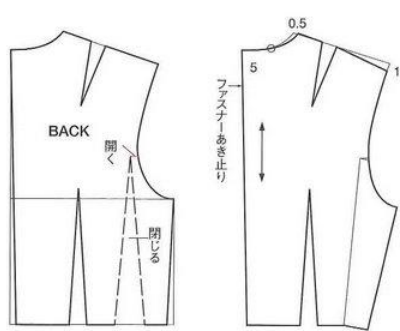


PATTERN MAGIC

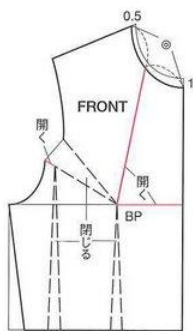
“消える……”の
パターンを作る

81 ページ “消えるスカーフ”

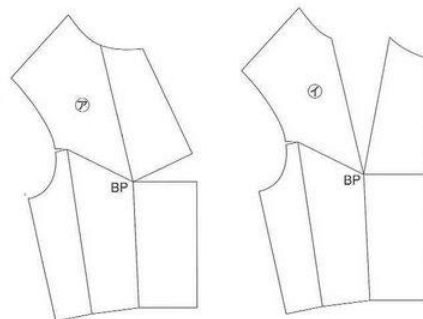
首にふわっと巻いたスカーフが、
身頃に溶け込んで、消えた!



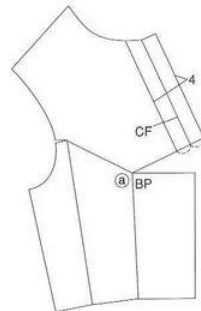
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



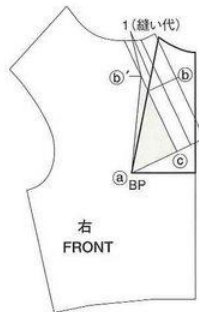
② 前身頃は、バストラインと袷ぐりの2か所で、それぞれダーツをたたんで切り開く。



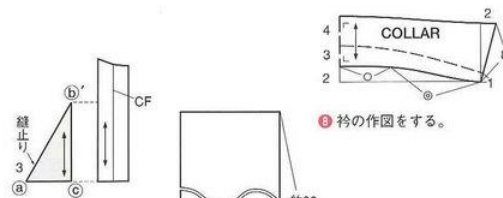
③ バストラインで切り開くパターンを②、袷ぐりで切り開くパターンを①とする。



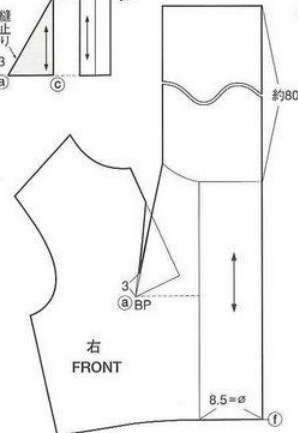
④ ②のパターンのBLから上に前立てをつける。バストポイントを②とする。



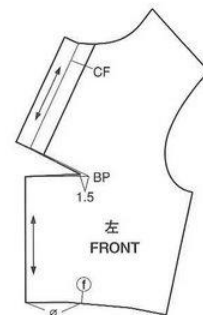
⑤ 上前身頃の作図をする。④のパターンに、③のパターンを重ねる。③はスカーフが溶け込んで、消えるほうの身頃になる。スカーフをつなげると身頃と重なる部分ができるので、身頃のほうは別裁ちにする。④⑤⑥の三角形の部分になる。三角形の④～⑥を身頃と縫い合わせるのに、縫い代が必要なので1cmゆとりを入れ、⑤を④へ移動する。④⑤⑥は別裁ちにする。



⑥ 袷の作図をする。



⑦ スカーフと身頃をつなげたパターン。

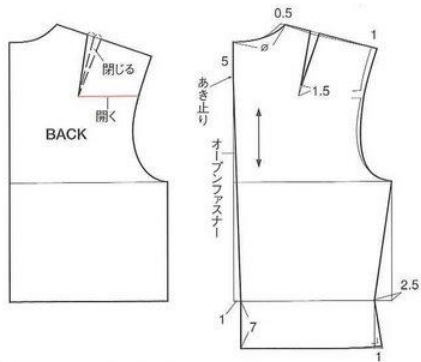


⑧ 下前は、⑦の身頃を使用する。ダーツは短くしてスカーフで隠れるようにする。

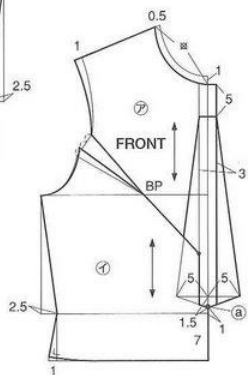
82ページ“消えるネクタイ”

どうなっているのだろう？

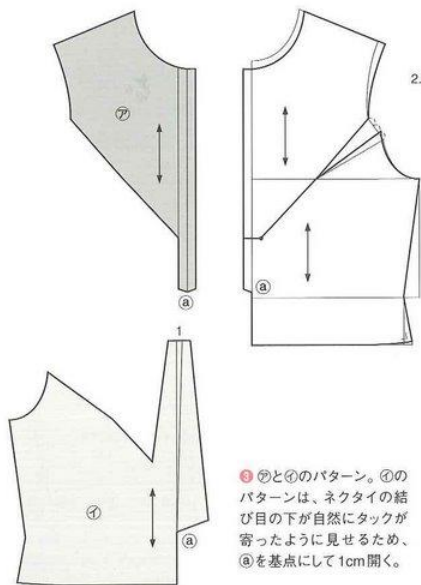
ネクタイの先が、シャツの中に消えている。



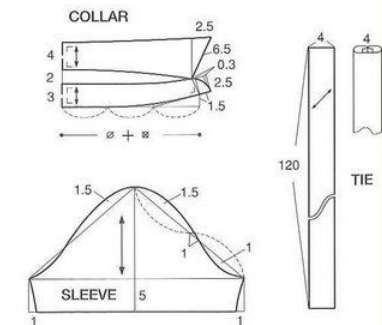
① 作図をする。後ろ中心をファスナーあきにする。



② 前身頃に、ネクタイの結び目から下の部分をかく。ネクタイの右下を消すために前身頃に切替え線を入れた。右身頃はネクタイの部分と重なるので②と③のパターンに分けた。前中心とネクタイの先の交点をaとする。

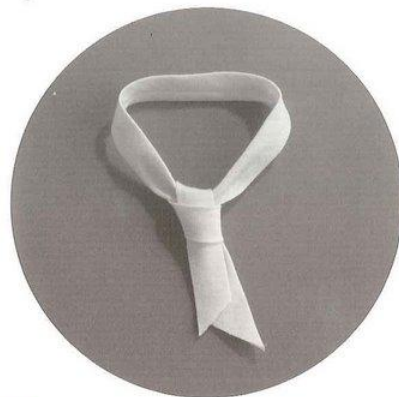


③ ②と④のパターン。④のパターンは、ネクタイの結び目の下が自然にタックが寄ったように見せるため、aを基点にして1cm開く。



④ 衿と袖の作図をする。

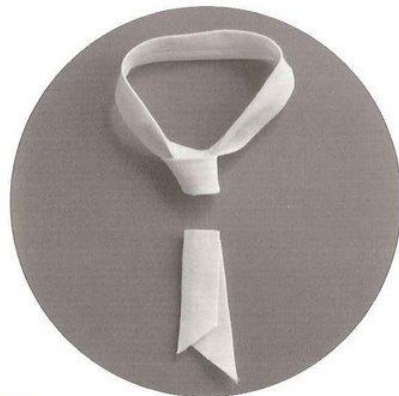
⑤ ネクタイの長さは本縫いで決めるので、多めにとっておく。



⑥ ネクタイを結ぶ。



⑦ 身頃にボディに着せて、ネクタイをつけてみる。好みの状態で結び目の位置を決めるが、頭の入る寸法をとる。



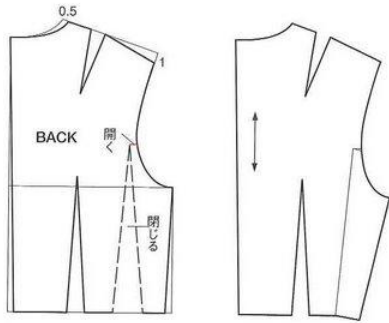
⑧ 結び目の位置が決まったら、結び目から下をカットする。カットした部分は不要になる。



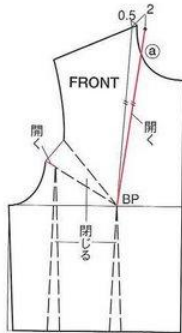
⑨ ネクタイの上の部分を衿にかけ、身頃のネクタイを結び目の中に入れる。自然な感じになるようにネクタイをセットし、目立たないようにまつ。

83 ページ “消えるラベル”

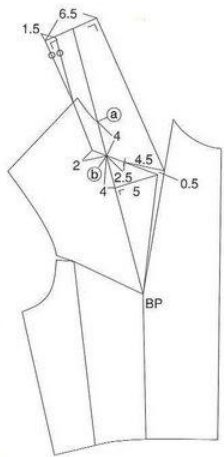
テーラードカラーのラベルは、
どこから始まっているのだろう。



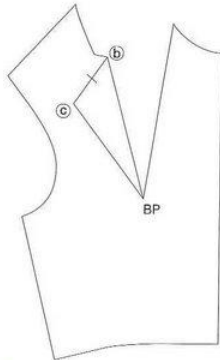
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



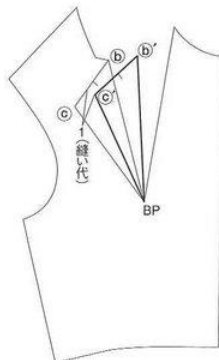
② 切開き線をかき、衿ぐりと切開き線の交点を◎とする。



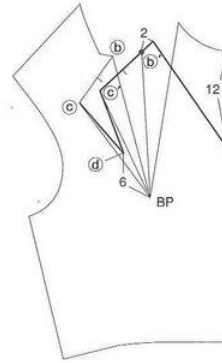
③ ダーツをたたみ、テーラードカラーの作図をする。ラベルの始まる位置を◎とする。



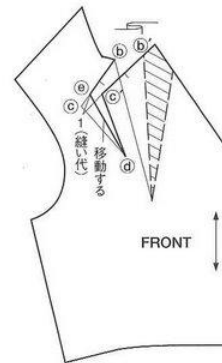
④ bとバストポイントを結んだ線を軸としてラベルを反転して写す。ラベルの先を◎とする。



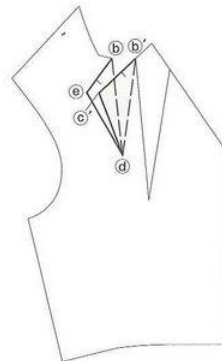
⑤ ラベルの縫い代をとる。バストポイントを基点とし、ラベルの角が1cm開く位置まで移動し、◎'b'とする。



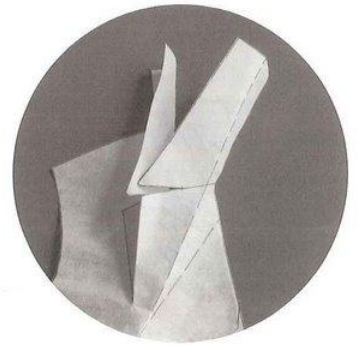
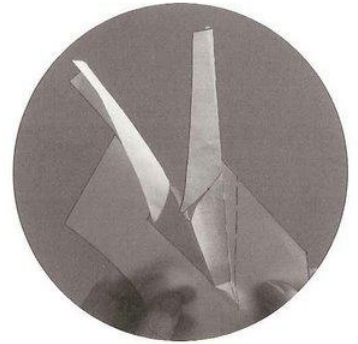
⑥ ◎'b'を2cm延長し、前中心と結んで衿ぐりとする。バストポイントから6cm上がった位置を◎とする。◎~d、◎'c'を結ぶ。



⑦ 身頃の切替え線を目立たせないように縫い代分として1cm残し、◎~dを移動し、◎'e'とする。



⑧ b'~◎'c'~d'でできた三角形を反転する。b'~d'の線上にb'~d'~◎を合わせる。b'~d'とb'~d'の長さが違うのでb'と◎を結び直す。b'~◎~d'~◎'c'でできる菱形がラベルに隠れる部分になる。

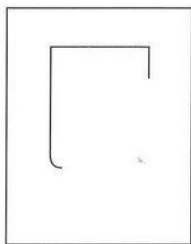
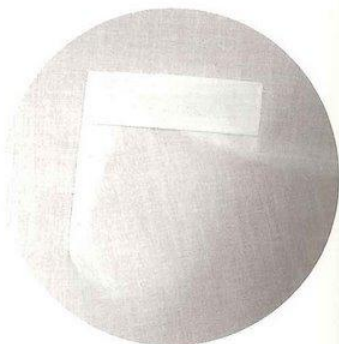


作図で仕組みがわかりづらい部分は、ゾーニングペーパーで作ってみると理解しやすい。

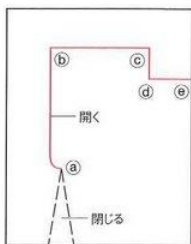
84 ページ “消えるポケットA”

絵をかき始めて、
途中でやめてしまったように
ポケットが消えている。
やはり “ダーツをたたんで開く”
のハイテク的な応用。

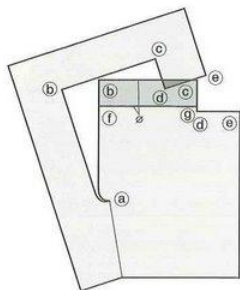
●ポケットA、B、Cは、
本来のポケットの機能は持たない。



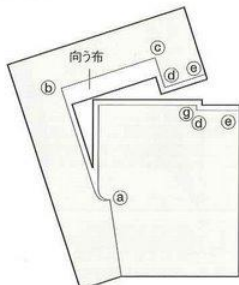
① ポケットのアウトラインをかき、角の消したいところを消しゴムで消す。



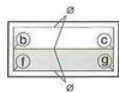
② ポケットを立体につける場合、ダーツを利用して切替え線を消すことができる。①をダーツ止りにして、切替え線(d~e)の1本だけでアウトポケットを作ってみる。



③ ダーツをたたむと、土台とポケットが重なってしまった。そこで、ポケット口を切り替えることにした。縫い代分と、切替え線のバランスを考えて寸法とした。



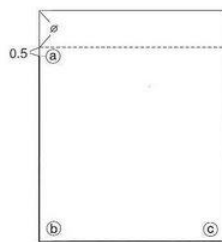
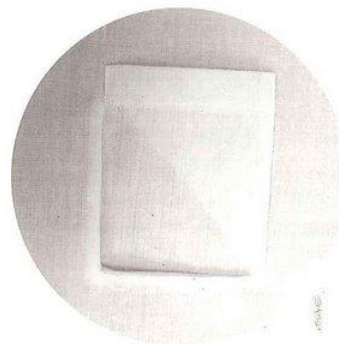
④ ポケット口を切り替えることで縫い代分ができる。



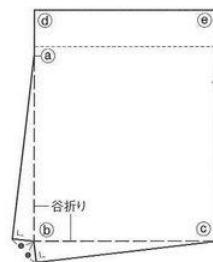
⑤ 切替えに縫い代をつける。土台のポケット口周辺(⑥~⑦)の下の土台布は向う布を兼ねるので、できるだけ多くとりたい。

84 ページ “消えるポケットB”

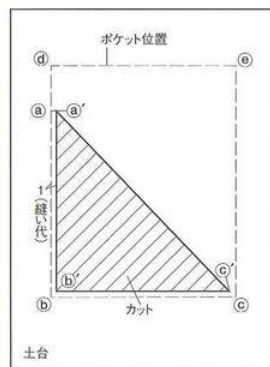
難破船が海に沈んでいくように……
アウトポケットの左の角が少し沈没し始めた。
これも “消える” の表現だ。



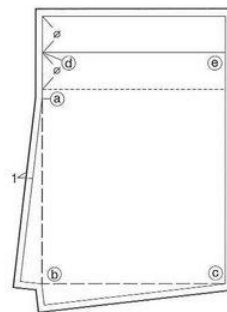
① アウトポケットの沈めたい位置を決める(①~②)。



② ①を基点にして、沈める深さを決め、直角に①、②と結ぶ。①~②~③は谷折りになる。



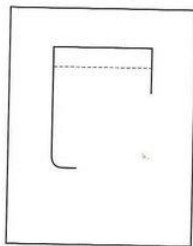
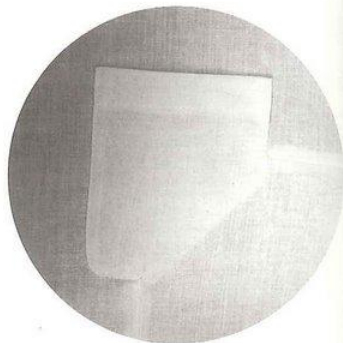
③ 土台布のポケットつけ位置①~②~③に縫い代をつける。①~②~③で囲まれた三角形は不要な部分なのでカットする。



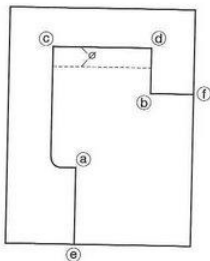
④ ポケットのパターンは、ポケット口の折返し分を加え、縫い代をつける。

消えるポケットC

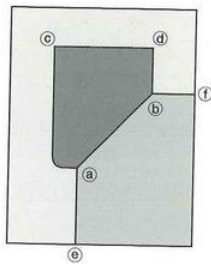
ポケットの角が消えている。
不思議だが実は、
ポケットの形をした切替え線……
というのが、マジックの種明し。



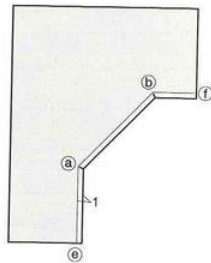
① ポケットのアウトラインをかき、角の消したいところを消しゴムで消す。



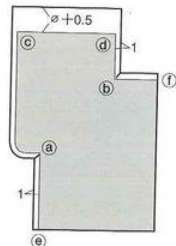
② 消したところ③、④から、⑤～⑥、⑦～⑧と切替え線を入れる。③、④を通して、⑤、⑥の位置はどこでもいい。



③ ⑤～⑥～④～③で囲まれたところが重なった、二つのパターンを作る。



④ 土台とポケットに縫い代をつける。



この本の使い方

女性のための服は体にフィットさせるだけでなく、より魅力的に見せるという大きな目的がある。そのために服のデザインは尽きることなく、時代を越えて、永遠の楽しみを私たちに与えてくれる。イメージをシルエットやディテールにするために、ここでご紹介したパターンを作る方法を役立ててほしい。この本の発想に学び、さらに自分なりの新しいやり方を見つけてもらえればもっとうれしい。この本に掲載した服のデザインの作図、パターンの操作はすべて文化式原型成人女子用Mサイズ(バスト83cm、ウエスト64cm、背丈38cm)をベースにしている。そして、立体のパターン操作には $\frac{1}{2}$ のボディを使った。このボディはすべての寸法が $\frac{1}{2}$ になっていて、表面積は $\frac{1}{4}$ 、体積は $\frac{1}{8}$ になる。 $\frac{1}{2}$ のボディを使うと、全体のバランスや雰囲気簡単に把握することができて便利だ。またパターンの成立ちをわかりやすく紹介することを目的としたため、パターンには実際に仕立てるために必要な表記、また、布の使用量の掲載も省略してある。

作図の略称表記

- BP Bust Point (バストポイント、乳頭点)
- AH Arm Hole (アームホール、袖ぐり)
- FAH Front Arm Hole (前アームホール)
- BAH Back Arm Hole (後ろアームホール)
- B Bust (バスト、胸囲)
- W Waist (ウエスト、腹囲)
- H Hip (ヒップ、腰囲)
- BL Bust Line (バストライン、胸囲線)
- WL Waist Line (ウエストライン、腹囲線)
- HL Hip Line (ヒップライン、腰囲線)
- EL Elbow Line (エルボーライン、肘線)
- CF Center Front (センターフロント、前中心)
- CB Center Back (センターバック、後ろ中心)

作図中の表示記号

案内線		目的の線を引くために案内となる線。 細い実線で表わす。
等分線		一つの限られた長さの線が等しい長さに分けられていることを表わす線。細い破線で表わす。
出来上り線		パターンの出来上りの輪郭を表わす線。 太い実線または破線で表わす。
わに裁つ線		わに裁つ位置を表わす線。 太い破線で表わす。
ステッチ線		ステッチの位置を表わす線。 細い破線で表わす。
ギャザー		ギャザーを入れる位置を表わす。 細い実線で表わす。
見返し線		見返しをつける位置と大きさを表わす線。 一点破線で表わす。
直角の印		直角であることを表わす。 細い実線で表わす。
線の交差		左右の線が交差することを表わす。
布目線		矢印の方向に布の縦地を通すことを表わす。 太い実線で表わす。
バイアス方向		布のバイアス方向を表わす。 太い実線で表わす。
伸ばす印		伸ばす位置を表わす。
いせる印		いせる位置を表わす。
閉じて切り開く印		パターンのダーツを閉じ、 その反動を開くことを表わす。
別々のパターンを続けて裁つ印		布を裁つときに パターンを続けることを表わす。